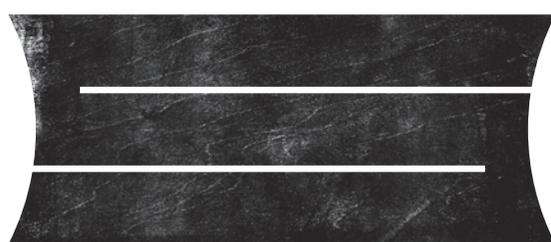


AOMORI GOKAN アートフェス 2024

開催報告書



AOMORI
GOKAN
アートフェス
2024

アオモリ県立美術館

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

目次

1. はじめに	3	8. 広報物 (告知・制作物・サイン関連)	66
2. 開催概要		8-1 告知物	67
2-1 開催情報	4	8-2 公式ガイドブック関連	71
2-2 テーマ、特徴	5	8-3 ノベルティ	71
2-3 会場情報	6	8-4 アートフェス公式グッズ	72
2-4 企画、実施体制	8	9. 連携事業	
3. 開催までの経緯	9	9-1 フェスサポーター	74
4. プロジェクトの展開概要		9-2 周遊プランの企画、開発	76
4-1 AOMORI GOKAN アートフェス 2024の展示構成	10	9-3 その他	79
4-2 各館展示の詳細		10. 経済波及効果	84
青森県立美術館	12	11. 助成・協賛一覧	86
青森公立大学 国際芸術センター青森	18	12. 収支状況	88
弘前れんが倉庫美術館	24	13. 作品リスト	89
八戸市美術館	30		
十和田市現代美術館	36		
4-3 共通企画			
(1) 栗林隆《元気炉》	42		
(2) ラーニングプログラム	46		
5. 周遊チケット	48		
6. 公式ガイドブック	49		
7. 広報・宣伝			
7-1 活動実績	50		
7-2 掲載実績	53		
7-3 宣伝・プロモーション	58		
7-4 タイアップ	60		
7-5 WEBサイト・SNS	61		

1. はじめに

2024年4月13日に開幕した、青森県初のアートフェス「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」は142日間の会期を終え9月1日に無事閉幕となりました。

期間中の各館対象展覧会における総入場者数は、目標としていた25万人を大きく上回る303,265人となり、複数館への来館や県内周遊などの開催効果に繋げることができました。

これもすべて、参加作家やゲストアーティストをはじめ、協賛を賜りました企業・団体、フェスサポーター、並びにイベント参加者など、多くの皆さまのご理解と支えがあってこそ達成できたものと感じております。皆様には心より御礼を申し上げます。

前例のない挑戦となった本アートフェスは、「つらなりのはらっぱ」をテーマに、個性的な活動をしている公立の美術館・アートセンター(青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館)が、つらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの想いを込め、この地に根差して活動する各館のキュレーターが協働し、共通テーマの設定、展覧会やプロジェクトなど、それぞれの館の特徴を活かした多彩なプログラムを実施しました。

また、アートを起点に、開催4市(青森市、弘前市、八戸市、十和田市)を中心として、県内各地域のアートをはじめ、自然や食、そして建築などを組み合わせた発信を行い、各館を訪れる方が周遊し、新たな魅力に出会えるような取組に努めました。その結果、本アートフェスをきっかけに、県外から初めて青森県を訪れた方、県内でも地元だけではなく、地域を超えての来館者が多くみられ、各地の多様な魅力を再発見していただけたのではないかと思います。

さらに、今回、共通企画として開発した小学校高学年向けの鑑賞プログラムなどは、次世代を担う子どもたちがより深くアートを楽しむ体験になったことから、引き続き取り組んでいく意義は大きいと思っています。

「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」によって深まった5館のアートを核とした連携は、これからもそれぞれの館の特徴やポテンシャルを発揮しながら、ゆるやかな「つらなり」を通し、継続的な発展を目指していきますので、今後も引き続きご支援をお願いいたします。

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 一同



左から 十和田市現代美術館 鷺田館長、八戸市美術館 佐藤館長、青森県立美術館 杉本館長、弘前れんが倉庫美術館 木村館長、青森公立大学 国際芸術センター青森 服部館長 撮影：小山田邦哉

2. 開催概要

2-1 開催情報

タイトル	(日) AOMORI GOKAN アートフェス 2024 (英) AOMORI GOKAN Arts Fest 2024
テーマ	(日) つらなりのはらっぱ (英) Interweavers in Open Fields
会期	2024年4月13日(土) - 9月1日(日)
会場および 展覧会 プロジェクト名	◎青森県立美術館「かさなりとまじわり」 ◎青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] 「currents/undercurrents—いま、めくるめく流れは出会って」 ◎弘前れんが倉庫美術館「蜷川実花展 with EiM: 儚くも煌めく境界」 弘前エクステンジ#06「白神 <small>しらかみのぞきみこう</small> 観見考」 ◎八戸市美術館「エンジョイ!アートファーム!!」 ◎十和田市現代美術館「野良になる」
主催	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 [青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、 十和田市現代美術館、青森県、青森市、弘前市、八戸市、十和田市、(公社)青森県観光国際交流機構]
実行委員長	杉本康雄 (青森県立美術館 館長)
企画	【青森県立美術館】 池田亨、工藤健志、菅野晶、板倉容子、高橋しげみ、奥脇嵩大 【青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC]】 慶野結香 【弘前れんが倉庫美術館】 木村絵理子、佐々木蓉子、宮本ふみ 【八戸市美術館】 大澤苑美、高橋麻衣、平井真里 【十和田市現代美術館】 外山有菜、葛西あいか、青山真樹、土井太陽
協力	青森県商工会議所連合会 / 青森県商工会連合会 / 青森県中小企業団体中央会 / 青森 経済同友会

2-2 テーマ、特徴

■ 2024年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」について

「はらっぱ」と聞いて思い浮かべる風景は人それぞれ違うように、青森には「はらっぱ」にたとえられる、個性豊かな現代美術を扱う5つの館が揃っている。「はらっぱ」は目的をもって行くところではなく、訪れることでなにかに会い、なにかが起こる、特別だけれど日常とも地続きの場所だ。そこは、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り広げられる場とも言える。本テーマには、5つの美術館やアートセンターがまさに「はらっぱ」のように機能し、それぞれの個性的な活動のつらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの思いが込められている。

■ 本アートフェスの特徴

新しい文化芸術ネットワークの在り方を探る

本アートフェスではディレクターを置かず、5館の学芸員が集まって議論を重ね、コンセプトやテーマを練りあげていった。これは新しい文化芸術ネットワークの在り方を探り、青森県の文化的多様性とその魅力を伝えていく試みとなった。

5館の個性を接続させることで浮かび上がる「つらなりのはらっぱ」というテーマ

5館は青森市、弘前市、八戸市、十和田市にそれぞれ点在し、文化圏や都市機能の異なる地域で、各館がそれぞれ個性的な活動を行っている。本アートフェスはプロジェクトによって各館がゆるやかにつながり、その効果を県全域に波及させていくことを目指した「芸術文化体験+観光」プロジェクトだ。今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」のもと、5館の特徴を活かした展覧会、また共通企画として栗林隆《元気焔》が各館を巡回した。

子どもたちが楽しく、アートに触れられる5館共通の鑑賞ツール

アートフェスをより深く楽しむため、子どもや親子を対象とした鑑賞ツールを用意。5館に親しむための情報や作品鑑賞のコツなどアート体験の入口となるコンテンツのほか、各館の展示やプロジェクトに関するワークシートを制作した。

青森県内の多彩な魅力を5つの美術館、アートセンターを軸に体験する周遊プラン

本州最北端に位置し、三方を海に囲まれた青森県は地域により気候や風土が異なり多彩な伝統、自然、食文化に恵まれている。本アートフェスでは、その魅力を再発見してもらうことを目的に、工芸、建築、自然などをテーマに設定し、国内外、また県民や近隣の方にも新しいアートを通じた体験を提案した。

2-3 会場情報

青森県内にある5つの美術館・アートセンターをメイン会場に、それぞれの特徴を活かしたさまざまな展覧会やイベントが開催された。



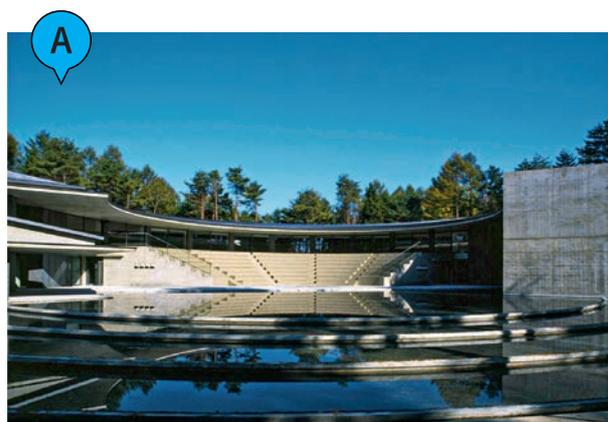
青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

Aomori Contemporary Art Centre
国際芸術センター青森



青森県立美術館

住所 青森県青森市安田字近野185
電話番号 017-783-3000
開館時間 9:30～17:00(最終入館16:30)
休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日に振替)
公式サイト <https://www.aomori-museum.jp/>



青森公立大学 国際芸術センター青森

住所 青森県青森市大字合子沢字山崎152-6
電話番号 017-764-5200
開館時間 9:00～19:00(展覧会:10:00～18:00)
休館日 年末年始(12/29-1/3)および大学入学試験に関わる日
公式サイト <https://acac-aomori.jp/>

弘前れんが倉庫美術館

八戸市美術館
Hachinohe Art Museum



©Naoya Hatakeyama

弘前れんが倉庫美術館

住所 青森県弘前市吉野町2-1
電話番号 0172-32-8950
開館時間 9:00～17:00(最終入館16:30)
※ただし金曜日・土曜日に限り、ライブラリーは
21:00まで開館
休館日 火曜日(祝日の場合は翌日に振替)、年末年始
公式サイト <https://www.hirosaki-moca.jp/>



©Daici Anō

八戸市美術館

住所 青森県八戸市大字番町10-4
電話番号 0178-45-8338
開館時間 10:00～19:00
休館日 火曜日(祝日の場合は翌日に振替)、年末年始
公式サイト <https://hachinohe-art-museum.jp/>

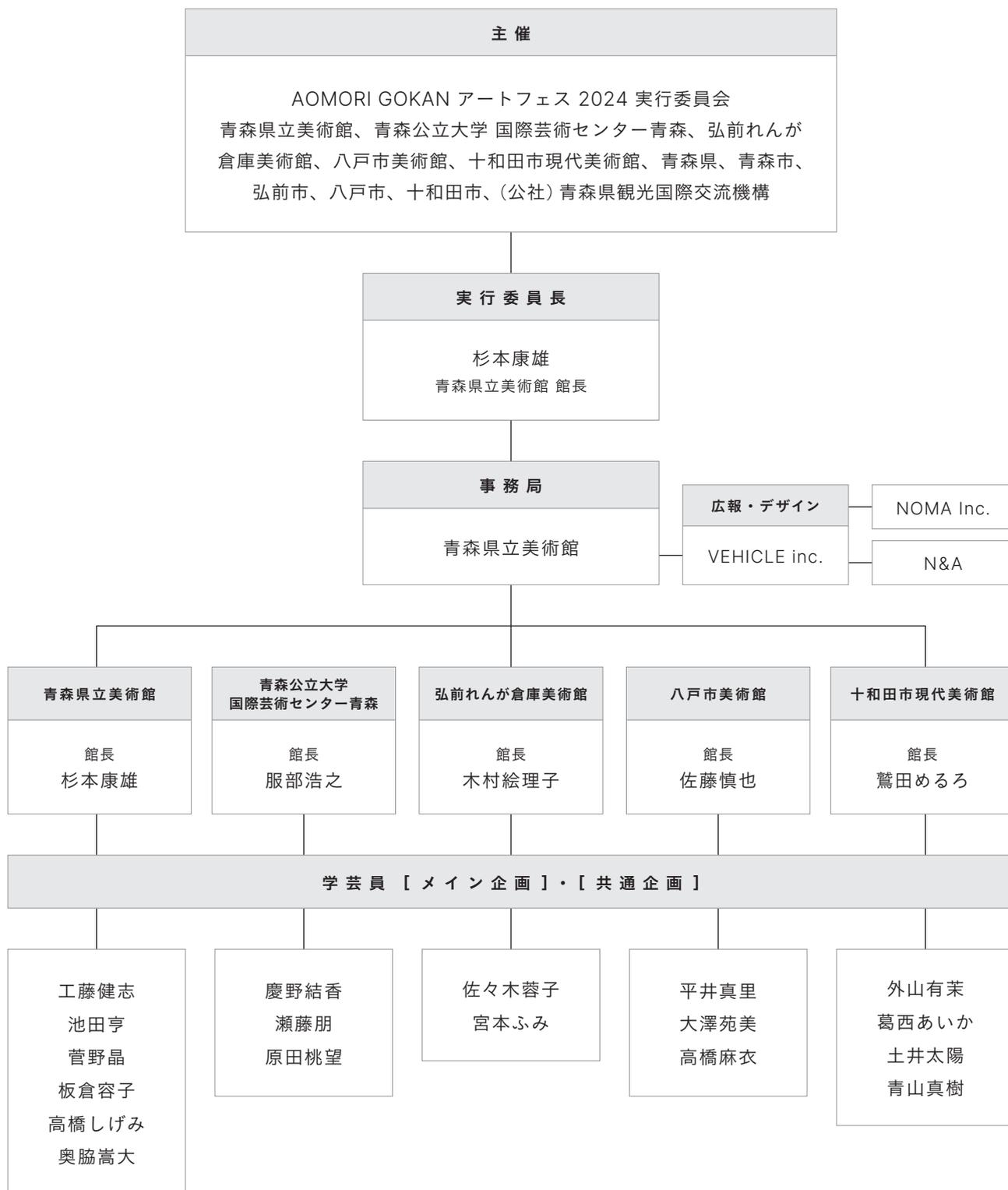
十和田市現代美術館
Arts Towada



十和田市現代美術館

住所 青森県十和田市西二番町10-9
電話番号 0176-20-1127
開館時間 9:00～17:00(最終入館16:30)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日に振替)
公式サイト <https://towadaartcenter.com/>

2-4 企画、実施体制



3. 開催までの経緯

日時		内容
2020年	7月8日	青森アートミュージアム5館連携協議会設立
2021年	2月27日	トークイベント『アート県/圏「青森」の挑戦！！』開催
2022年	3月6日	トークイベント『アート県「青森」の挑戦！！第二』開催
2023年	3月30日	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会設立
	7月20日	第2回 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会開催
	9月8日	第1回 広報・運営会議開催
	11月6日	記者発表(東京都)
	11月8日	記者発表(青森市)
	12月11日	第2回 広報・運営会議開催
	12月22日	第3回 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会開催
2024年	1月31日	第3回 広報・運営会議開催
	2月14日	5館周遊チケット販売
	3月13日	公式ガイドブック販売
	3月22日	第4回 広報・運営会議開催
	3月28日	第4回 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会開催
	4月13日	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 開幕
	4月12日-13日	第1回 メディアファムツアー
	4月14日	開幕記念「参加作家によるクロストーク」
	4月25日-27日	第2回 メディアファムツアー
	5月6日	関連企画「エンジョイ！パフォーマンスピクニック」開催(八戸市美術館)
	5月28日	第5回 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会開催
	6月15日	関連企画「Maher Shalal Hash Baz ライブ『山の上の連絡船』」開催(青森公立大学 国際芸術センター青森)
	7月14・20・21日	関連企画「永田康祐《Feasting Wild》」開催(十和田市現代美術館)
	7月23日	ラーニングプログラム「AOMORI GOKAN ファイルブック」配布
	8月9日-9月1日	共通企画 栗林隆《元気炉》「Aomori GENKI-RO Trip」巡回
	8月9日-10日	第3回 メディアファムツアー
	8月10日	ラーニングプログラム「高校生サマープログラム」開催
	8月30日-9月1日	関連企画「L PACK.《いっしょくたにへば たげめぐなるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》」開催(弘前れんが倉庫美術館)
	9月1日	関連企画「音楽フェスティバル『青森の合唱』」開催(青森県立美術館)
	9月1日	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 閉幕

4. プロジェクトの展開概要

4-1 AOMORI GOKAN アートフェス 2024の展示構成

(1) メイン企画

共通テーマ「つらなりのはらっぱ」のもと各館で開催した展覧会

No.	タイトル	日時	会場	入場者数
1	かさなりとまじわり	前期：2024年4月13日(土)－6月23日(日)	青森県立美術館	72,681名
		後期：2024年7月6日(土)－9月29日(日)		
2	currents/undercurrents 一いま、めくるめく流れは出会って	前期：2024年4月13日(土)－6月30日(日)	青森公立大学 国際芸術センター青森	8,329名
		後期：2024年7月13日(土)－9月29日(日)		
3	蜷川実花展 with EiM： 儚(はかな)くも煌(きら)めく境界 Where Humanity Meets Nature	2024年4月6日(土)－9月1日(日)	弘前れんが倉庫美術館	54,016名 <small>(カウントを行なった館外会場 6,438名含まず)</small>
4	弘前エクステンジ#06 『白神視見考(しらかみのぞきみこう)』	2024年4月6日(土)－9月1日(日)	弘前れんが倉庫美術館、 cafe & shop BRICK、 ギャラリーまんなか、 HIROSAKI ORANDO	
5	エンジョイ！アートファーム!!	2024年4月13日(土)－9月1日(日)	八戸市美術館	68,430名
6	野良になる	2024年4月13日(土)－11月17日(日)	十和田市現代美術館	99,809名

※入館数はアートフェス開催期間(4/13-9/1)の集計

(2) 共通企画

5館を巡回した共通作品の展示

No.	タイトル	日時	会場
1	栗林隆《元気炉》 「Aomori GENKI-RO Trip」	2024年8月9日(金)－8月11日(日)	青森県立美術館
		2024年8月14日(水)・15日(木)	青森公立大学 国際芸術センター青森
		2024年8月18日(日)・19日(月)・21日(水)	八戸市美術館
		2024年8月24日(土)・25日(日)	十和田市現代美術館
		2024年8月28日(水)－9月1日(日)	弘前れんが倉庫美術館

(3) 関連企画

共通テーマから各館で開催した関連イベント

No.	タイトル	日時	会場	入場者数
1	クロストーク	2024年4月14日(日)	青森県立美術館	31名
2	エンジョイ！パフォーマンスピクニック	2024年5月6日(月・祝)	八戸市美術館	200名
3	Maher Shalal Hash Baz ライブ 『山の上の連絡船』	2024年6月15日(土)	青森公立大学 国際芸術センター青森 展示棟 野外ステージ	76名
4	永田康祐《Feasting Wild》	2024年7月14日(日)・20日(土)・21日(日)	14-54 (コミュニティスペース)	24名
5	L PACK.《いっしょくたにへばたげ めぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》	2024年8月30日(金)－9月1日(日)	土淵川吉野町緑地 (弘前れんが倉庫美術館前)	約600名
6	音楽フェスティバル『青森の合唱』	2024年9月1日(日)	青森県立美術館 シアター	183名

(4) 同時開催

本フェスの期間中に開催した他の展覧会

No.	タイトル	日時	会場
1	帝国ホテル二代日本館100周年 フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築	2024年3月20日(水・祝)－5月12日(日)	青森県立美術館
2	コレクションラボ007 大久保景造と八戸文化	2024年3月23日(土)－7月8日(月)	八戸市美術館
3	展示室の冒険	2024年4月20日(土)－6月24日(月)	八戸市美術館
4	tupera tuperaのかおてん.	2024年7月6日(土)－9月1日(日)	八戸市美術館
5	尾角典子 #拡散	2024年7月6日(土)－9月8日(日)	space (十和田市現代美術館 サテライト会場)
6	鴻池朋子展 メディシン・インフラ	2024年7月13日(土)－9月29日(日)	青森県立美術館
7	コレクションラボ008 彩る書	2024年7月13日(土)－10月28日(月)	八戸市美術館

4-2 各館展示の詳細

青森県立美術館

メイン企画

「かさなりとまじわり」

会期 前期：2024年4月13日(土)－6月23日(日) 後期：2024年7月6日(土)－9月29日(日)

会場 青森県立美術館

観覧料 一般：900円(700円) / 高・大学生：500円(400円) / 小・中学生：100円(80円)

※()は20名以上の団体料金

企画 工藤健志、池田亨

内容

建築家、青木淳は、遊園地のように決まった楽しみ方が準備されているのではなく、はらっぱのように、自由に自分なりの遊びを発見し、楽しむことのできる空間として、青森県立美術館を構想した。本展は、青木のこの「原っぱ論」を援用し、展示室だけでなく、コミュニティギャラリーやワークショップなど美術館の様々な場所で、現代の美術に大きな足跡をのこしたアーティスト、そこから影響をうけた次の世代のアーティストなどの作品が、相互に、また美術館の個性的な空間や、美術館をとりまく自然や社会とかさなりあい、まじわりあうことを意図して構成した。

青木淳はアートフェス全体の導入となるりんご箱を用いた看板《つらなりのはらっぱのための壁》をエントランス前に、館内にもりんご箱による案内表示を設置。エントランスギャラリーに展示されるのは、ギリシア神話の100の目をもつ巨人アルゴスをもとにつくられた、現代の監視社会を象徴する怪物、井田大介の作品《Synoptes》。コミュニティホールには、アートフェスの来場者の日常体験を、バーチャル空間に再現された5館の特徴的な展示室に表示し、展示室の「作品に芸術的価値を与える」機能によってアート作品に転換することを試みたVirtualionの《a day before art》が投影された。

コミュニティギャラリーには、二人の戦後前衛美術の作家の作品を軸に、そこから波紋のように広がる作家たちの作品が展示された。原口典之の巨大な戦闘機の尾翼《F-8E CRUSADER》には大森裕美子、大森記詩、青秀祐の作品が連なり、吉田克朗の版画作品からは、妻の吉田榊子、息子の吉田有紀の作品とともに、彼が設立に関わった三戸町立現代版画研究所の資料と同研究所に滞在制作し残していった版画家たちの作品群が連なった。

また、ワークショップエリアには、青森出身の9人の若い作家たちの展示が一人ずつ、連続して開催され、期間中にはワークショップなどのイベントも開催された。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



1 青木淳 つらなりのはらっぱのための壁 2 コミュニティーホール 展示風景 (Virtualion)



1



2



3



4



5



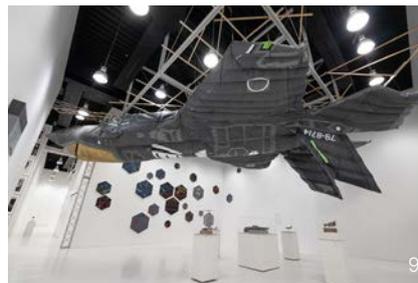
6



7



8



9



10

1 井田大介 Synoptes 2 エントランスギャラリー 展示風景 3,4 原口典之 F-8E CRUSADER 5 大森記詩 展示風景 6 大森記詩 Tail code 7,8 大森裕美子 展示風景 9 コミュニティギャラリー C 展示風景 10 青秀祐 Ghost Lightning kai



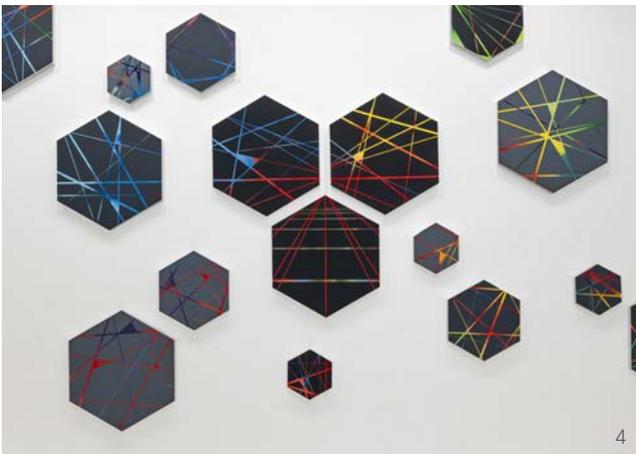
1



2



3



4



5

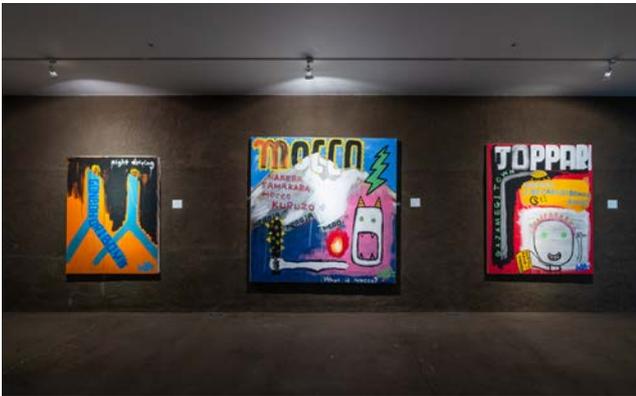
1 吉田克朗、三戸町立版画研究所 展示風景 2 吉田克朗 展示風景 (Work“8”, Work“10”) 3 吉田築子 展示風景 (GLOSSY 1, GLOSSY 12)
4,5 吉田有紀 展示風景 (Silver lining in the dark)



吉田謙也個展「ガラスと」4月13日(土) - 5月12日(日)



室谷心太郎「4次元の右腕」5月16日(木) - 5月26日(日)



KOYA 個展「青二九才展」5月28日(火) - 6月9日(日)

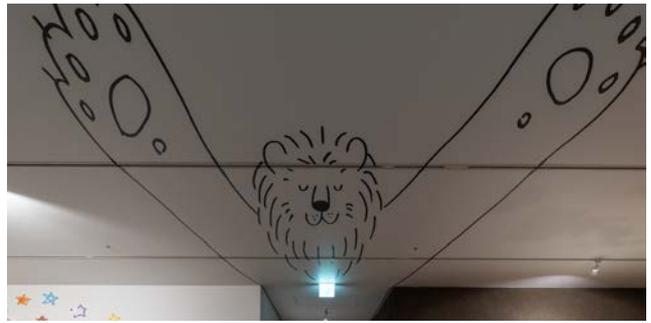


糸虫個展「虫けら」6月11日(火) - 6月23日(日)





Nakaya 個展「ねむりどうぶつたち展」7月6日(土) - 7月21日(日)



トヨカワイラスト研究室のイラスト展「スーパーラブ♡地獄」7月23日(火) - 8月12日(月・祝)



窪田梨絵個展「VS Long Covid」8月14日(水) - 8月25日(日)



算用子綺香個展「いつかの海」8月27日(火) - 9月8日(日)



宮野春香個展「たべものあたま2014-2024」9月10日(火) - 9月29日(日)



関連企画

音楽フェスティバル『青森の合唱』

日時 2024年9月1日(日) 13:30開場 / 14:00開幕

会場 青森県立美術館 シアター

参加アーティスト 人間椅子、佐藤竹善、伊藤ゴロー feat. 坂本美雨

参加料 無料
(ただし、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 後期コレクション展
+かさなりとまじわり展の当日有効な観覧チケットが必要)



青森の合唱 トーク

内容

それぞれ異なるジャンルの音楽を手がける4アーティストによるライブをアートフェス最終日に開催した。共通するのは「青森出身、ゆかり」という点のみ。そろっての共演ははじめてとなる4組の青森の個性がぶつかりあい、熱気あふれる演奏がくりひろげられた。

青森の合唱 セットリスト

伊藤ゴロー feat. 坂本美雨

1. ノスタルジア (作詞：樽湖夫 / 作曲：伊藤ゴロー)
2. 風の谷のナウシカ (作詞：松本隆 / 作曲：細野晴臣)
3. 鉄道員 (作詞：奥田民生 / 作曲：坂本龍一)
4. かぞくのうた (作詞：坂本美雨 / 作曲：中島ノブユキ)



佐藤竹善

1. 心のEvergreen (作詞：藤田千章、佐藤竹善 / 作曲：藤田千章、佐藤竹善)
2. たそがれマイ・ラブ (作詞：阿久悠 / 作曲：筒美京平)
3. Home Town (作詞：藤田千章、佐藤竹善 / 作曲：藤田千章、佐藤竹善)
4. Change the World (作詞・作曲：トミー・シムズ、ゴードン・ケネディ、ウェイン・カークパトリック)
5. Spirit Of Love (作詞：キャット・グレイ、藤田千章 / 作曲：佐藤竹善)



人間椅子

1. 新青年まえがき (作詞：和嶋慎治 / 作曲：和嶋慎治 / 編曲：人間椅子)
2. りんごの涙 (作詞：和嶋慎治 / 作曲：鈴木研一、和嶋慎治)
3. 宇宙からの色 (作詞：和嶋慎治 / 作曲：和嶋慎治 / 編曲：人間椅子)
4. ねぶたのもんどりこ (作詞：鈴木研一 / 作曲：鈴木研一)
5. 無情のスキャット (作詞：和嶋慎治 / 作曲：和嶋慎治 / 編曲：人間椅子)
6. どだればち (作詞：和嶋慎治 / 作曲：鈴木研一、和嶋慎治)
7. なまはげ (作詞：和嶋慎治 / 作曲：和嶋慎治 / 編曲：人間椅子)



撮影：小山田邦哉 (P12~17 すべて)

メイン企画

「currents/undercurrents－いま、めくるめく流れは出会って」

会期 前期：2024年4月13日(土)－6月30日(日) 後期：2024年7月13日(土)－9月29日(日)

会場 青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] 展示棟

観覧料 無料

企画 慶野結香

内容

古くからヒトをはじめとする生き物たちは、自然環境の影響を受けながら、移動を続けることで生きてきた。生まれた場所、定住する場所、訪れた場所、そしてこれから行く場所は、今たまたまの現在地である青森と、どのようにかかわり合うのか。そして様々な場所の環境や、生命などの存在、歴史や記憶と私たちはいかに語り合い、時に交差し、つながり直しながら、生きていくことが可能なのだろうか。

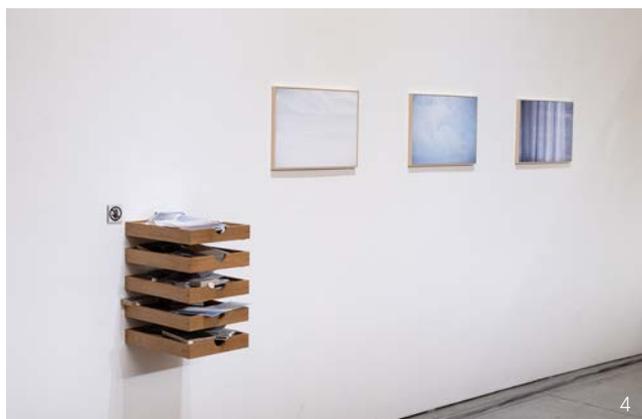
表現活動を行う人々が全世界から集う場である国際芸術センター青森で行う本展では、「現在」という意味をもちながら、海流や気流をはじめとして、ある一定の方向に動く水や空気、電流などの変わり続ける流れを示す「current」と、表面や他の流れの下にある目に見え難い流れや暗示を意味する「undercurrent」をキーワードとして、場所とかがわり合いながら表現をつむぎ出す国内外のアーティスト、そして青森ゆかりの表現の数々が集った。加えて、会期半ばで展示替えをすることで、一度限りでない場所への働きかけや、変化し続ける「いま」をこの場に取り込むことを試みた。10名の作家による作品に加え、後期では青森市教育委員会が所蔵するアイヌの衣服を展示した。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



岩根愛《The Opening》2024年

後期の展示の様子



1 ジュマナ・エミル・アブード 2 是恒さくら《双子鯨の夢を見たら》2024年

3 ロビン・ホワイト 4 中嶋幸治《通過せよ》2024年

5 アイヌの衣服（青森市教育委員会所蔵）

撮影：小山田邦哉（P18～20 すべて）

関連企画リスト

日時		企画名
2024年	3月13日(水) 16日(土) 20日(水・祝) 23日(土) 27日(水) 30日(土)	13:00～16:00 是恒さくら共同制作 「うつろいのあいだを繕う～石になる鯨、具になるイルカ」
	4月13日(土)	14:30～16:00 青野文昭トーク「表現の『道・の・奥』を言葉にする」
	4月20日(土) 5月11日(土) 25日(土) 6月8日(土) 22日(土)	13:00～16:00 (所要時間は 30～60分ほど) 是恒さくら共同制作／刺繍カフェ「大きな鯨の小さなかけら」
	前期 5月4日(土・祝) 後期 8月3日(土)	10:30～11:30 キュレーターツアー
	5月5日(日・祝)	14:30～ (終了時間自由) 中嶋幸治ワークショップ「リンゴの花と過ごす」
	4月29日(月・祝) 5月30日(木)	13:00～16:00 (所要時間は 30～60分ほど) 是恒さくら共同制作／刺繍カフェ「大きな鯨の小さなかけら」 @あおもり北のまほろば歴史館
	6月15日(土)	13:00～15:00 Maher Shalal Hash Baz ライブ「山の上の連絡船」
	6月30日(日)	14:30～16:00 光岡幸一ワークショップ「徒然面構E情(ツレヅレツラガマエツラツラ)」
	7月13日(土)	14:30～16:30 海外アーティストによるトーク
	7月14日(日)	14:30～16:00 伊藤俊治トーク「めくるめくパターンとイメージ」
	7月20日(土)	14:30～16:00 是恒さくらトーク「大きな鯨を囲んで一流れ寄るモノとイメージを語る」
	7月21日(日)	10:00～13:00 山川陸×慶野結香 ツアー「あちらの流れをたどる」
	7月28日(日)	14:30～16:00 岩根愛×町口覚トーク「唯一無二の写真と、写真集のために」
	8月4日(日)	14:30～16:00 パレスチナを考える① Subversive Film / Tokyo Reels プロジェクト「土地の日」上映会
	8月6日(火)	14:30～16:30 パレスチナを考える② Station House Opera「At Home in Gaza and London」上映会+トーク
	8月17日(土)	9:30～12:30 岩根愛 夏休みイベント「水に流さない」
	9月29日(日)	12:00～ (なくなり次第終了) クロージングイベント 是恒さくら「くじらびらき」

関連企画 ①

青野文昭 トーク 「表現の『道・の・奥』を言葉にする」

日時 2024年4月13日(土) 14:30～16:00

会場 国際芸術センター青森 展示棟 ラウンジ

参加アーティスト 青野文昭

参加料 無料



撮影：小山田邦哉

内容

仙台に生まれ、同地を拠点として活動を続ける青野文昭は、学生時代からみちのく最果ての青森を訪れ、「なおす」行為を通して、東北地方に向けられてきた価値観を日常的な視点から刷新しようとしてきた。本展のために制作された大型立体作品で、「みちのく」なるものに対する応答を行っている青野が、資料なども参照しながら、完成した自作の解説を試みた。

関連企画 ②

Maher Shalal Hash Baz ライブ 『山の上の連絡船』

日時 2024年6月15日(土) 13:00～15:00

会場 国際芸術センター青森 展示棟 野外ステージ

参加アーティスト Maher Shalal Hash Baz
(マヘル・シャルル・ハシュ・バズ)

参加料 無料



撮影：後藤圭孝

内容

工藤冬里を中心とした実験音楽バンド、Maher Shalal Hash Baz(マヘル・シャルル・ハシュ・バズ)の野外ライブを行った。楽器や音の出るものを持参すれば出演者でなくても演奏にも参加でき、音楽家たちと来場の皆さんが融合しながら、会場を歩き手を変え繰り返しながらパフォーマンスは展開。時空間を共有しながら様々なことが起こり、ACACの空間を存分に響かせてくれた。

関連企画 ③

岩根愛 夏休みイベント 「水に流さない」

日時 2024年8月17日(土) 9:30～12:30
会場 国際芸術センター青森 展示棟ギャラリーB入口 集合
参加アーティスト 岩根愛
参加料 無料



撮影：ACAC職員

内容

本展覧会参加作家の写真家・岩根愛は、八甲田山の根開きや奥入瀬の水系など青森をめぐる水のめぐりを追いかけ、7月からの後期展示で青森を撮影した新作を発表。夏休みに子ども(幼稚園～小学校中学年)たちを対象に開催した本企画では、川の上流で起こったこと、行われたことが下流にそのまま影響することを、りんごを通して体感できるアクティビティを行った。

関連企画 ④

クロージングイベント 是恒さくら 「くじらびらき」

日時 2024年9月29日(日) 12:00～(なくなり次第終了)
会場 国際芸術センター青森 展示棟 野外ステージ
参加アーティスト 是恒さくら
参加料 無料



撮影：小山田邦哉

内容

共同制作で縫われた是恒さくらの本展出品作品。鯨の胴体を模した部分を解き、布の中に納められたもち米を取り出して、餅つきを行い、振舞った。是恒さんとおしゃべりをしながら原寸大のマッコウクジラの一部となる刺繍・アップリケを作るワークショップ「大きな鯨の小さなかけら」にご参加いただいた皆さまや、展覧会の出展作家、たまたま訪れた来館者の方や地域住民、学生など多くの方にお集まりいただいた。是恒さんの「双子鯨」に入っていた津軽のもち米はお餅となり、鯨の肉を皆で分け合うように、おいしくいただいた。

メイン企画 ①

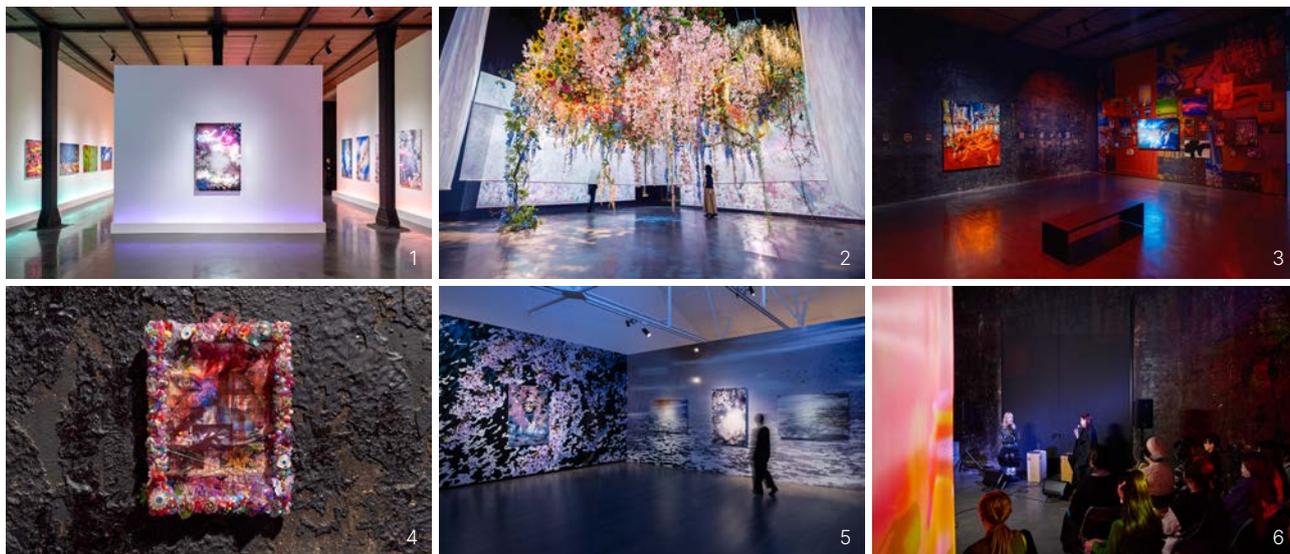
「^{はかな}蜷川実花展 with EiM: ^{きら}儂くも煌めく境界
Where Humanity Meets Nature」

会期	2024年4月6日(土)－9月1日(日)
会場	弘前れんが倉庫美術館
観覧料	一般：1,500円(1,400円) / 大学生・専門学校生：1,000円(900円) / 高校生以下：無料 ※()は20名以上の団体料金 ※弘前市民は500円割引
企画	木村絵理子、佐々木蓉子

内容

日本を代表する写真家・映画監督として、精力的に活動する蜷川実花と、異なる分野の作り手や研究者が作品に応じて有機的に集まるクリエイティブチーム・EiM(Eternity in a Moment)による大規模な個展。日本各地の花々を捉えた写真作品のほか、EiMのメンバーであるデータサイエンティストの宮田裕章(みやた ひろあき)、セットデザイナーのEnzo(エンゾ)らとの協働によって、異なる季節と時間を生きる花々が一堂に会する空間に、光と映像があふれるインスタレーションを発表した。展示のクライマックスでは、蜷川が2022年から弘前に通って撮影した、弘前公園の桜の写真を紹介した。アートフェスのテーマ「つらなりのはらっぱ」に応答する形で、人間と自然とが築いてきた関係性を浮かび上げ、それぞれが住まう土地の自然やその背景にある文化、歴史を新たな視点から捉え直す機会を目指した。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



1 「四季の花々」より、本展会場風景 2 「Sanctuary of Blossoms」より、蜷川実花《Sanctuary of Blossoms》(部分) 2024年 展示風景
3 「Liberation」より、本展会場風景 4 「Liberation」より、蜷川実花《Reverbs》2023-2024年 5 「弘前の春」より、本展会場風景
6 4月28日に開催されたオープニングトークの様子 左から：蜷川実花、木村絵理子(弘前れんが倉庫美術館 館長)

撮影：小山田邦哉

蜷川実花展 関連プログラム

オープニングトーク

日時	2024年4月6日(土) 14:00～15:30
会場	展示室
登壇者	出演：蜷川実花 聞き手：木村絵理子(弘前れんが倉庫美術館 館長)
参加料	無料(要観覧券)
内容	蜷川氏が作品制作や自身の半生について語るトーク・イベント。

学芸スタッフによる蜷川展解説ツアー

日時	2024年4月28日(日)・5月19日(日)・6月30日(日)・7月28日(日) 11:00～11:30
会場	展示室
参加料	無料(要観覧券)
内容	学芸スタッフが一緒に館内を巡りながら展覧会の見どころを紹介。

蜷川実花監督作『さくらん』上映会

日時	2024年7月20日(土) 14:00～/17:30～・7月21日(日) 14:00～
会場	スタジオB
参加料	1,200円
内容	安野モヨコの同名コミックを映画化した、蜷川実花の長編初監督作品を上映。

メイン企画 ②

「弘前エクステンジ#06『しらかみのぞきみこう白神視見考』」

会場 弘前れんが倉庫美術館 [狩野作品館外展示会場] 土淵川吉野町緑地、cafe & shop BRICK、HIROSAKI ORANDO、ギャラリーまんなか

会期 2024年4月6日(土)－9月1日(日)

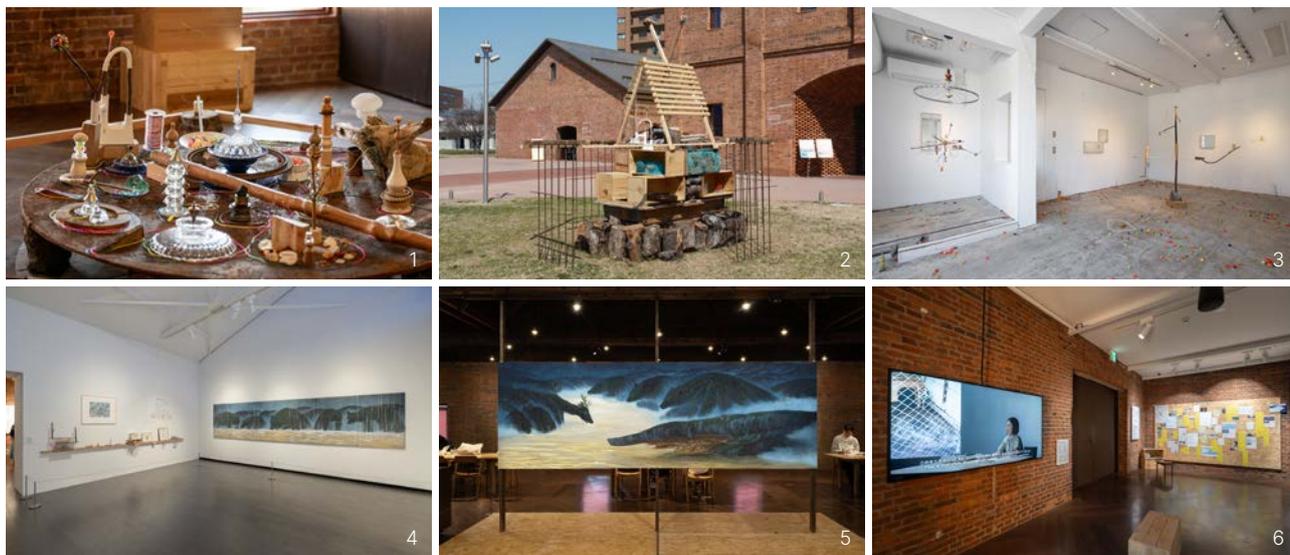
観覧料 美術館展示室のみ『蜷川実花展 with EiM：儂くも煌めく境界』の観覧券が必要

企画 宮本ふみ

内容

弘前エクステンジ#06「白神視見考」と題して、白神山地をテーマにリサーチ・プロジェクトを実施。本企画は、4組のアーティストたちが、それぞれの視点で、作品展示をはじめワークショップやイベントなどを実施した。狩野哲郎は、白神山地が世界自然遺産となったことで、それまでそこに暮らしていた人や動物にどんな変化が生まれたのかを探り、立体作品を中心に美術館内外で展開した。永沢碧衣は、自身の狩猟経験をもとに制作した絵画作品とその過程を垣間見せる資料を展示。佐藤朋子は「向こう側研究会」を立ち上げ、会期を通じて、長期的なリサーチの過程を公開しアップデートする取り組みを行った。L PACK. は、弘前市では馴染み深い夏の祭りである「宵宮」に触発され、展覧会期末に3日限定のイベントとして体験型作品を公開した。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



1 狩野哲郎《魔術的な道》(部分) 2024年 2 狩野哲郎《あいまいな地図、明確なテリトリー》2024年

3 左から 狩野哲郎《系(水平の車輪、マーブル、集中線)》2024年、《Mirrored Mirage (Rectangle)》2014年、《一本で複数の木》2021年、《Mirrored Mirage (Square)》2014年

4 右：永沢碧衣《共鳴》2023年 左(壁面)：狩野哲郎《純粋な標識(カモフラージュ)》2019年、作家によるスケッチやリサーチにまつわる資料

5 永沢碧衣《山懐を満たす》2024年

6 左：佐藤朋子《Song of the Fox, August 2022 Version》2022年 右：佐藤朋子による「向こう側研究会」の活動資料

撮影：小山田邦哉

白神視見考 関連プログラム

狩野哲郎 アーティストトーク&ツアー

日時	2024年4月7日(日) 14:00～15:30
会場	スタジオB、展示室ほか
登壇者	狩野哲郎、東信行(弘前大学農学生命科学部教授)、ムラノ千恵(弘前大学農学生命科学部助教)
参加料	無料
内容	作家・狩野哲郎とリサーチ協力者によるトークと美術館周辺の館外展示の解説ミニツアー。

学芸スタッフによる「白神視見考」解説ツアー

日時	2024年5月5日(日)・6月16日(日)・7月14日(日) 11:00～11:30
会場	展示室他
参加料	無料(要観覧券)
内容	当館学芸スタッフが一緒に館内を巡りながら弘前エクステンジ#06「白神視見考」の見どころを紹介。

佐藤朋子×永沢碧衣 アーティストトーク「向こう側研究会」公開勉強会

日時	2024年6月1日(土) 14:00～15:30
会場	スタジオB
登壇者	佐藤朋子、永沢碧衣
参加料	無料
内容	参加作家の佐藤朋子が会期中を通して取り組んだリサーチプロジェクト「向こう側研究会」の公開勉強会。

関連企画

L PACK.《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》

日時 2024年8月30日(金)－9月1日(日) 全日17:00～20:00

会場 土淵川吉野町緑地(弘前れんが倉庫美術館前)

入場料 無料(参加費別)

参加アーティスト L PACK.

内容

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニットのL PACK.による体験型作品、《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》を、「AOMORI GOKAN アートフェス2024」共通企画の栗林隆《元気炉》の展示とあわせて、フェスの最後を締めくくる3日間に発表した。

宵宮や屋台など地域の身近な文化から着想された本作品では、クラフトビールを製造する「Be Easy Brewing」(弘前市)、津軽地域で長年親しまれている駄菓子「大王当て」を製造する「佐藤製菓」(弘前市)、全国の自然栽培の野菜を販売しフードロスにも取り組む「青果ミコト屋」(神奈川県横浜市)とのコラボレーションによる屋台が緑地に並んだ。メニュー名には逆さ言葉を用いて、言葉遊びの要素と、屋台の軒先でお客さんと作家によるコミュニケーションを楽しむことができる作品となった。

作品タイトルの「いっしょくたにへば たげめぐるはんで」は、津軽弁で「まぜこぜにすればとても美味しくなるから」の意味である。近隣の保育園に通う親子連れや学校終わりの高校生の姿、友達連れの大学生の姿など、幅広い世代の方々が集った。



撮影：小山田邦哉



撮影：成田写真事務所

メイン企画

「エンジョイ! アートファーム!!」

会期 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

観覧料 無料

企画 平井真里、大澤苑美、高橋麻衣

内容

八戸市美術館のコンセプト「出会いと学びのアートファーム」を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、八戸を拠点に活動する5人のアーティストがプロジェクトを展開。ダンスの制作、作品鑑賞や大きな絵の制作、写真撮影やトークプログラムなど、来場者とアーティストが交流しながら様々な活動が行われた。会期の終わりに向けて活動が進むにつれて、5人の活動記録が蓄積され、変化していくジャイアントルームの様子は、訪れる人によって使い方が決められていく「はらっぱ」のような場でもあり、出会いが生まれる「ファーム」でもあった。本企画では、美術館のコンセプトが体現され、来場者とアーティストが関わり合うことで、まるで畑に蒔いた種のようにそれぞれの感性が育っていった。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



関連企画

エンジョイ! パフォーマンスピクニック

日時 2024年5月6日(月・祝) 10:00~17:00

会場 八戸市美術館

参加アーティスト 居間theater 東彩織、稲継美保、宮武亜季、山崎朋(演出・構成/パフォーマンスプロジェクト)、福田毅(コラボレーター/俳優)、磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平、小林源治、安田美央、久保田久美絵、山本裕美

参加料 無料

内容

美術館を「はらっぱ」に見立て、美術館での過ごし方や、アートとの出会いかたを模索したアートイベント。美術館の好きな場所にレジャーシートを広げ、美術館広場のキッチンカーでフードやドリンクを買って食べながら、各々の好みのピクニックを楽しめる。ピクニックをしていると、来場者の言葉から紡がれる音やダンス、絵のプレゼントや、ぬり絵教室、展示作家の詩の朗読など、アーティストによる様々なパフォーマンスが届く。また、この“場”づくりに関わったすべての人たちの活動が、1つの演劇作品となったイベントでもあった。



「エンジョイ!アートファーム!!」アーティストトーク

日時 2024年8月24日(土) 10:30~12:30

会場 八戸市美術館 スタジオ

参加アーティスト 磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平

参加料 無料

内容

ジャイアントルームを舞台に、「エンジョイ!アートファーム!!」参加アーティスト5人が一堂に会し、それぞれのプロジェクトや活動について振り返った。



■ 磯島未来《あなたからダンスを紡ぐ》

会期 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

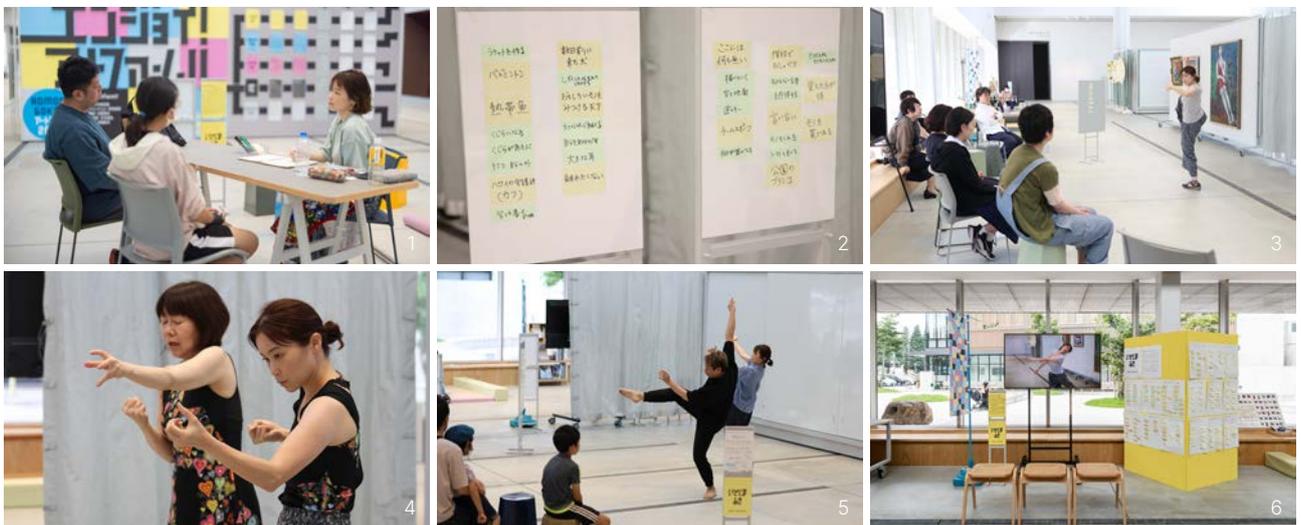
観覧料 無料

内容

公募によって県内外から訪れた参加者から、これまでに経験した出来事や、生きる上で大事にしていることなどを磯島が聞きとり、その話をもとに、その人らしさが凝縮したダンスの振付をその場で考案。振付を磯島や参加者自身が踊り、その場集まった人たちに向けて披露した。振付は後日、アーカイブ映像にし、ジャイアントルームで展示した。また、生み出した振付を作品に再編し、1日限りの「ダンスパフォーマンス」を実施した。

活動日 | 4月13日(土)・21日(日)・5月19日(日)・6月9日(日)・22日(土)・7月7日(日)・27日(土)・8月25日(日)

時間 | 各日 ①10:30~12:30 ②14:30~16:30



プロジェクトの様子 撮影:1~5 神智 6 小山田邦哉

磯島未来《あなたからダンスを紡ぐ》関連プログラム

ダンスパフォーマンス

日時 2024年8月4日(日) ①11:30~ ②14:30~

会場 八戸市美術館 スタジオ

参加アーティスト 磯島未来

参加料 無料

内容 《あなたからダンスを紡ぐ》プロジェクトで作りだした振付を再編して構成し、ダンス作品として披露。



ダンスパフォーマンス 撮影:神智

■ 漆畑幸男《幸福の絵描き》

会期 大きな絵制作期間 | 4月13日(土) - 6月3日(月)
大きな絵展示期間 | 6月5日(水) - 7月1日(月)
作品展示期間 | 4月13日(土) - 9月1日(日)

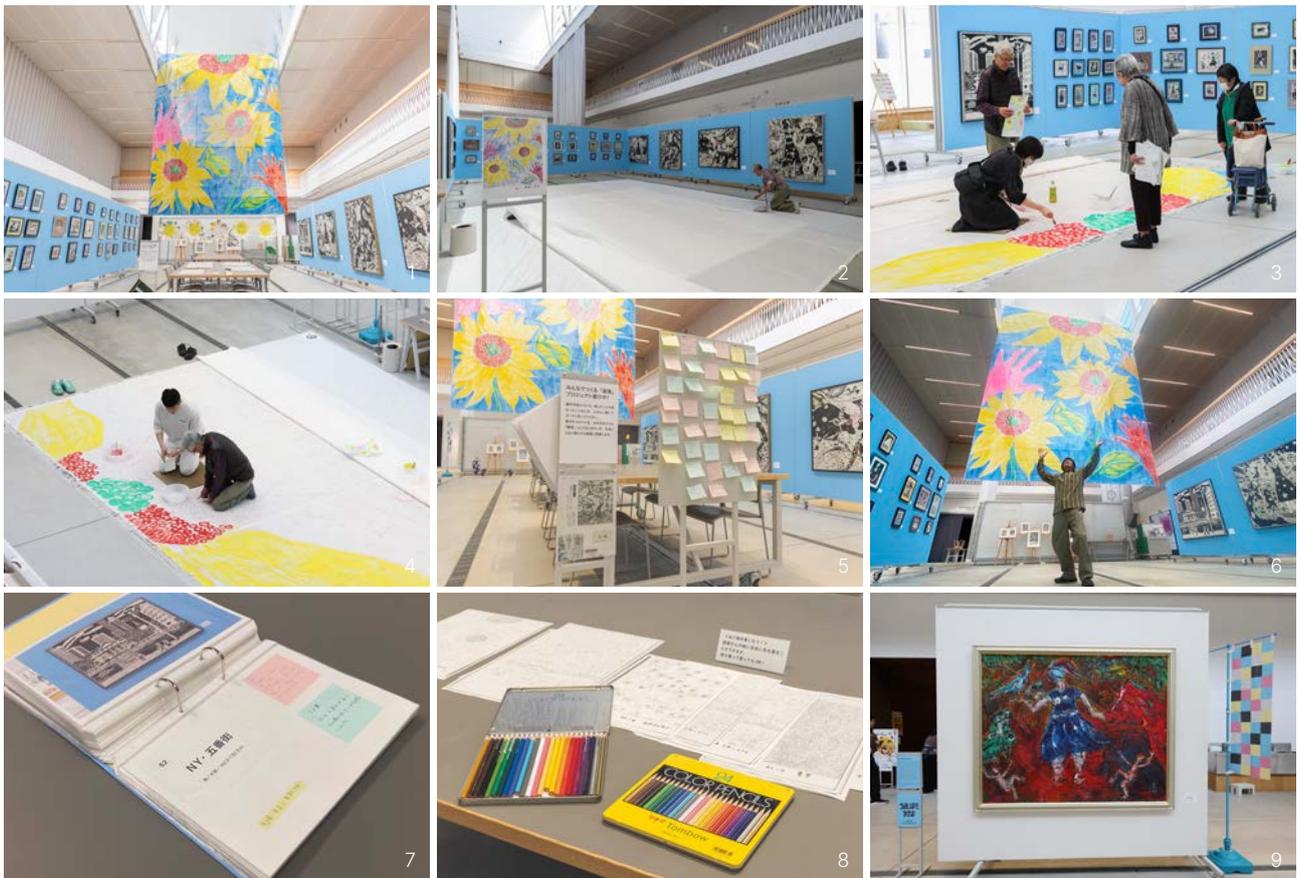
会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

観覧料 無料

内容

漆畑は、これまでに制作した作品約100点の展示とあわせて、4月から6月の間、ほぼ毎日ジャイアントルームに滞在。来場者は作品鑑賞に加えて、漆畑と交流しながら、共に大きな1枚の絵《平安の大花》(縦8メートル、横6メートル)を制作した。大きな絵は、4月から5月にかけて、100人を超える人々によってペイントされ、6月からはジャイアントルームに吊られ、漆畑の展示空間に更なる彩りを与えた。また、大きな絵のほか、来場者が付箋に書いた展示作品についての感想や解説を集め、参加型の「画集」を制作するプロジェクトも展開。集められた付箋は作品画像とともにファイリングし、誰でも閲覧できる形でジャイアントルームに設置した。

同時に、漆畑のスケッチをぬり絵にし、誰でも楽しめるようジャイアントルームのテーブルに設置。子どもから大人まで幅広く楽しめたことに加え、時には漆畑によるぬり絵教室が開催されるなど、自然発生的に“こと”が起こるきっかけにもなった。



プロジェクトの様子 撮影：1,3~5,7~9 神智 2 小山田邦哉 6 平井真里

■ しばやまいぬ《くにゆぎの森3D》

会期 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

観覧料 無料

内容

しばやまいぬは4月から5月にかけて、プロジェクトの世界観を表した版画作品《夜は短しとびだせ乙女》を公開制作した。本作の完成後、5月から7月にかけて「くにゆぎ」の木を制作。「くにゆぎ」は“くにゆくにゆ”という擬態語と、虫がよく集まる木のひとつ「クヌギ」を掛け合わせた造語である。想像力によって成長し、コンクリートの床を突き破ってくるイメージで制作された。くにゆぎは徐々にジャイアントルームに出現し、7月初旬には「くにゆぎの森」がつくられた。

この森には版画をもちいて立体的につくられた架空の虫が隠されており、来場者は“虫捕り”を楽しむことができた。また、新種の虫を考案して描くこともでき、描かれた虫は新種図鑑に記録され、一部はしばやまいぬによって版画で制作された。しばやまいぬは会期中、毎日に近い頻度で滞在し、来場者と交流しながら公開制作を続けた。虫の制作には、八戸市美術館のアートファーマーが参加。

当初は全種類の虫から1匹の持ち帰りを可能としたが、虫の“乱獲”や“絶滅”が起こったため、持ち帰れる種類を参加者が“ミノ”を作成した「ミノペラゲラ」に限定。これにより、ワークショップの要素が加わった。くにゆぎの森の生態系を、参加者を含む様々な人が共に変化させる中で、それぞれの視点で発見や気づきを得る機会となった。



プロジェクトの様子 撮影：1,3~5,9 小山田邦哉 2,6~8 神智

■ 蜂屋雄士《はちや写真館 家族と写真のプロジェクト》

会期 2024年4月28日(土)－9月1日(日)

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

観覧料 無料

内容

蜂屋が撮る家族写真と、家族が自分たちで撮る家族写真の両方を比べてみることで、家族のあり方を味わうワークショップを実施。参加者は持参した家族写真で、蜂屋に向けて家族を紹介した後、蜂屋が美術館の内外で、参加した家族の写真を3枚のみ撮影した。

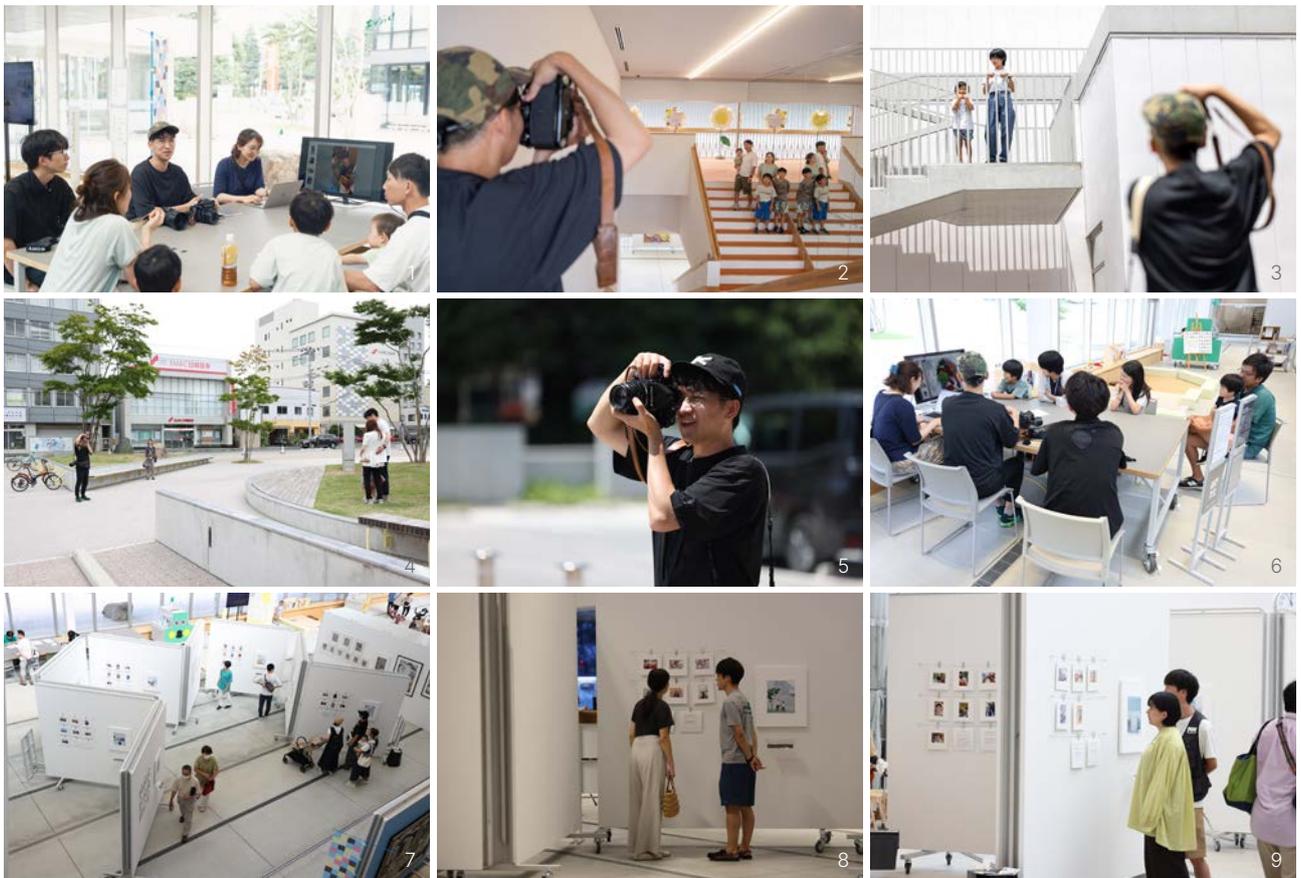
8月には、ワークショップに参加した計14組の家族の撮影写真を、参加者家族が持参した写真と併せてジャイアントルームで展示。蜂屋が撮影した写真の下には、その日に撮影した写真3枚のネガフィルムも展示した。

また、募集した家族とのワークショップのほか、美術館近隣の福祉施設の利用者と交流しながらの写真撮影も実施した。このワークショップでは、参加者が漆畑(参加アーティスト)の展示作品の中から好きな1点を選び、その作品と参加者が並んだ姿を蜂屋が写真に収め、参加者にプレゼントした。

ワークショップ

日程 | 5月18日(土)、6月2日(日)、6月16日(日)、6月30日(日) (4月28日(日) プロジェクトトライアル)

時間 | ①10:00～10:45 ②11:00～11:45 ③13:00～13:45 ④14:00～14:45 ⑤15:00～15:45



1～5 ワークショップの様子 7～9 展示の様子

撮影：1～3 小山田邦哉 4～9 神智

■ 東方悠平《自由の像、不自由なバナナ》

会期 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

観覧料 無料

内容

ベトナムでの長期滞在など、東南アジアとの関わりが深い東方が、ベトナムの野生のバナナを手がかりに、現在流通している品種改良されたバナナや、プランテーションでの栽培といった歴史的背景などにも目を向けながら、日常における「自由」について考えるプロジェクトを行った。東方がベトナムで野生のバナナを探す映像をはじめ、「バナナ」と「自由」にまつわるインスタレーションを展開。また、会期中はベトナムの文化などについて話した後、参加者が自由をテーマに絵日記を描く異文化交流イベント「バナナ・ワールドカフェ」を実施。さらに、外国人労働者をテーマにした映画上映や、八戸市近隣に住むベトナム人と共に、バナナを栽培する隣町の農園などを巡る「バナナ・ピクニック」などの関連イベントを開催した。会期の後半では、自由の女神像の顔を模した構造物が建てられ、その内部や周辺の壁で、イベント参加者の制作物を展示した。



東方悠平《自由の像、不自由なバナナ》関連イベント

異文化交流イベント「バナナ・ワールドカフェ」

日時 ①2024年5月12日(日)
②2024年8月25日(日) 10:30~12:00

会場 八戸市美術館 ジャイアントルーム

参加アーティスト 東方悠平

参加料 無料

内容 ベトナムの文化を紹介した後、参加者が「自由」「不自由」を感じたエピソードを絵日記に描いた。



映画上映&トークショー「海辺の彼女たち」

日時 2024年7月13日(土) 第1部 | 13:00~14:30
トークショー | 14:45~15:15 第2部 | 15:30~17:00

会場 八戸市美術館 スタジオ

参加アーティスト 東方悠平、渡邊一孝(映画プロデューサー)

参加料 無料

内容 日本で働く外国人労働者をテーマに、青森県外ヶ浜町で撮影された映画を上映。本映画のプロデューサー・渡邊一孝をゲストとして招いたオンライントークショーも実施。



バナナ・ピクニック

日時 2024年7月28日(日) 13:00~17:00

会場 八戸市美術館、観光農園「アグリノ里」、いちよう公園

参加アーティスト 東方悠平

参加料 無料

内容 八戸市近隣に住むベトナム人と交流しながら、隣町にあるバナナの育つ観光農園と、4分の1サイズの自由の女神像が建つ「いちよう公園」を訪ねた。その後美術館に戻り、それぞれが印象に残った当日の思い出を描いた。



撮影：1 小山田邦哉 2~4 神智

メイン企画

「野良になる」

会期 2024年4月13日(土)－11月17日(日)

会場 十和田市現代美術館 企画展示室、14-54 (コミュニティスペース)

観覧料 一般：1,800円 (1,600円) / 高校生以下：無料

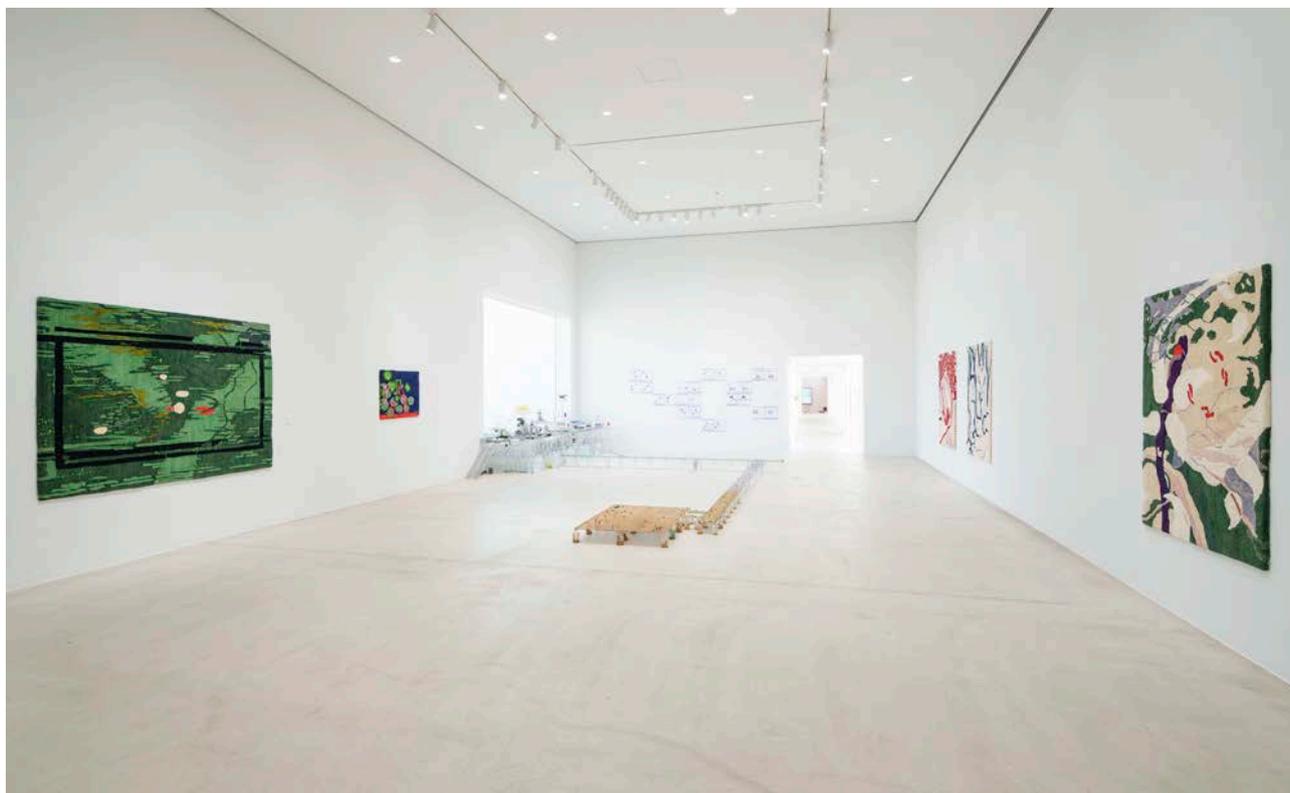
※ () は 20名以上の団体料金

企画 外山有茉

内容

本展では近代が生み出した自律した主体としての「人間」を見直し、そこから排除された存在や思考に目を向けた。私たちの思考を規定するさまざまな二項対立的な枠組みの境界を攪乱しつつ強かに一野生でも飼われるのでもなく野良のように一息づくあり方や物語を紹介した。日本とアメリカにルーツを持ち、トランスジェンダー女性として生きるあり方を彫刻で表現する丹羽海子、学校教育を離れ、独学でドローイングを柔らかいウールへと変換し風景を描く基原蓉子、品種改良や養殖といった人間のコントロールと動植物の生の関係を取り上げ、映像や料理の作品を作る永田康祐、ブラジルに植民地時代以前から伝わる知識をもとに、植物と人間の関係を問い直す作品を制作するアナイス・カレニンなど、多様な視点から自然を捉える若手アーティストの表現を展示した。

※作品詳細は巻末の作品リストを参照



撮影：富田了平

■ 丹羽海子

《メトロポリス・シリーズ：太陽光処理施設》

展示室の中央から窓へと向かって広がる丹羽海子のインスタレーションは、故障し廃棄された製品や、不要になって捨てられていたごみ、ペットボトルなどを集めて作られた。窓のそばに広がっているのは、色とりどりに着色されたコオロギが集う近代的な街や工場のように見える景色である。中央にはいくつものレンズがついた機械があり、まるで全体の流れをコントロールするかのように時折動いていた。窓は無数の小さな丸の模様で覆われ、うっすらと差し込む太陽の光が、コオロギたちの街に影を落とす。そこから部屋の中央にかけて道のようなプラットフォームで繋がった先に待っているのは、対照的に、さびに覆われ全てが黒い炭と化した荒廃した世界である。壁には、作家がインターネットで集めた画像を切り貼りしたエッセイが掲示されており、幼い頃に飼っていた虫を誤って殺してしまった時の罪悪感、最近の作家自身の身体・精神的な変化、現在起きている戦争や過去の残虐な出来事への悲しみ、そして未来への憂慮などが綴られていた。家畜やペットのように飼い馴らすことができず、時には群れになって人間の生活空間に入り込んでくる虫は、往々にして人間に疎まれる存在である。丹羽は、どこにでもいる身近な昆虫であり、食料としても利用されながらも嫌われがちなコオロギを孤独や喪失の象徴として捉え、自身が感じる疎外感や寂しさを投影することで作品に取り入れてきた。人間の消費社会が生み出すゴミでできた賑やかな街、そしてその先で焼かれて炭になったコオロギたちは、人間の歴史において「文明」に対する「野蛮な」存在として虐げられてきた人々の隠喩であり、人間性の脆さを思わせるものでもある。どこか愛らしさすら感じさせる彼らの姿は、技術の進歩や文明の発展という輝かしい言葉の影に、排除された存在が隠されていることを問いかける。



丹羽海子《メトロポリス・シリーズ：太陽光処理施設》2024年

撮影：1,2 小山田邦哉 3,4 富田了平

■ 墓原蓉子

《また増えた》《そちらはどうですか、こちらは》《霊園、そこにいますか》《霊園、猫がいた》《大湊線》

鮮やかな色彩の有機的で抽象的な図柄と、柔らかな羊毛の存在感が視覚だけでなく触覚にも訴えかける墓原蓉子の作品は、作家が目にした風景を、鉛筆やiPadでドローイングにし、羊毛のテキスタイルへと変換して作られた。葉や、木々、車窓から視界を過ぎ去っていく野原を描いたように見えるものもあれば、奥行きのない平面的な画面の上をうごめくどこか妖しげな線や色の塊もあり、直線的な枠を持たないテキスタイルの特性とも相まって、作家の心象風景が周囲の空間を侵食していくような印象を与える。

墓原は本展のための新作を描くにあたって、青森県内で奥入瀬渓流や恐山、六ヶ所村などを訪れ、広大でときに畏怖を感じさせるような自然が織りなす景色と、そこに住む人々の生活の様子、自然との精神的なつながりなどを目にした。そこで感じた印象は意外にも、作家のスタジオの近くにある東京の雑司ヶ谷霊園の雰囲気やそこに流れる時間にも通じるものだったそうだ。自然をどこか遠くの綺麗な景色として切り取って捉えるのではなく、身の回りの観察から始め、過去から現在へと続く時間の流れを感じながら、自らも自然の一部として捉え制作していくこと。作品には作家のそうした日々の思索や、日記のように書き溜めてきたドローイングが反映されている。

羊毛は、墓原が子どもの頃、学校へ行くことができなくなり引きこもるようになった時に祖母に編み物を教わり、毎日家の中で触れて同じ編み方を反復することで安心感を得ることができた素材である。社会とのつながりを保ちながら暮らすようになった今も、羊毛は墓原にとって自身を守りながら外の世界と自身をつなぐものであり、この世界を生きるための道具であり続けている。



墓原蓉子 1《そちらはどうですか、こちらは》 2 左から：《霊園、猫がいた》《霊園、そこにいますか》

3《大湊線》 4《また増えた》 すべて2024年

撮影：1,3,4 富田了平 2 小山田邦哉

■ アナイス・カレニン

《植物であったことはない》

ガラスの廊下を横断して室内から中庭へと広がるアナイス・カレニンの《植物であったことはない》は、写真、音、植物、香りなどで構成された身体的な感覚に呼びかけるインスタレーションである。人間による植物の管理と植民地化の歴史との関係に関心を持つアナイス・カレニンは、現代の森林の植生の管理方法や、近代化以前に人々が築いていた植物との関係性をリサーチしてきた。

2枚のイメージが重ねられた「計り知れない物質化から」は、戦後、建築資材を確保するために日本中に大規模に植えられたスギの生息地域を表した図と、人間が管理していない原生林で撮った写真とを重ね合わせたものである。柱のような「名無き遷移(根源変異)」は、植物から抽出した色素と、スギやその周囲の雑草から色素を抜き透明にした葉を組み合わせた彫刻だ。室内を香りで満たす「未知の祈りを想像する」は、選択的な植林によって生育数が減少してしまったヒバなどから香りを抽出した作品で、感覚的に植物とつながり、失われた森の多様性を思い起こすことを促す。また、歴史的なリサーチをもとに、18世紀に和人がアイヌの人々の暮らしを記録した資料から制作した「抜粋された」を廊下に展示した。作家はこれらの民族誌学的な資料の作成が、和人がアイヌの暮らしから有用な資源を搾取することにもつながっていったということを批判的に捉えている。そして、アイヌが植物と築いていたより親密な関係のあり方に学び、中庭にはアイヌが共に生きていた東北の薬効のある植物を植え、それら植物のアイヌ語名から作曲したサウンドが響く作品「地上へ上昇する」を制作した。

本作は静的な存在として見過ごされがちな植物の姿を多面的に捉え、入植や開発の中で失われていった植物との多様な関係性について再考するものである。植物を単に人間にとって有効な材料や商品として見なすのではなく、彼らを同じ世界を共有する存在である私たちの親類(kin)として捉え直すことを呼びかけている。



アナイス・カレニン《植物であったことはない》2024年

撮影：小山田邦哉

■ 永田康祐

《鮭になる》《鮭になる方法》

食にまつわる人間と他種の生物との関係性に関心を抱いてきた永田康祐は、青森県内でのヒメマスやサーモン養殖の研究を行い、養殖というコントロールされた環境における人間と魚の生のあり方について、2つの対になる映像作品を制作した。

アニメーション作品《鮭になる》は、養殖される鮭の視点から見た世界を想像した作品で、文化人類学者マリアンヌ・エリザベス・リーンの同名著書「Becoming Salmon」から着想している。素朴な線のアニメーションで、養殖場の鮭、鮭に寄生する海シラミ、養殖業者である人間、という3つの視点を行き来しながら、飼い飼われるという関係の中で生まれる情動を想像し、多種の生命の絡まり合いや、種の違いを超えて育まれうる絆の可能性、そしてまたそれが経済的なサイクルへと回収されていくさまを描いた。

一方、カフェで展示した《鮭になる方法》は、《鮭になる》を制作するにあたって、人間の立場から他種の視点を想像すること（とその不可能性）について、作家が文化人類学者やアーティストらとディスカッションした記録映像である。鮭はどのように人間を認識しているのかを想像するうちに、主体としての人間の輪郭も問われ、人間であるとはどういうことかが問い直されていく。また、養殖業において産卵の「ケア」をし、商品であり手をかけて育てた鮭を悼むとは何を意味するのか、現代的な生産管理システムの中では人間も同様に飼い慣らされているとさえ言えるのではないかなど、労働として他種を管理（ケア）し、共に生き、悼むことについて多様な意見が交わされた。



永田康祐 1,2《鮭になる》 3,4《鮭になる方法》2024年

撮影：1,3 小山田邦哉

関連企画

《Feasting Wild》

日時 2024年7月14日(日)・20日(土)・21日(日) 18:00～21:00

会場 14-54 (コミュニティスペース)

アーティスト 永田康祐

参加料 8,000円

内容

近年、食文化における身体技法やアイデンティティの形成などについて作品を制作している永田康祐が、青森で行った養殖・品種改良に関するリサーチをもとに考案したコース料理を作品として発表した。参加者は季節に合わせた9品の料理と5杯のドリンクをアーティストによって書かれたテキストとともに実際に味わうことができた。



撮影：小山田邦哉

関連プログラム

担当学芸員によるギャラリートーク

日時 2024年4月27日(土) 14:00～14:40 / 8月18日(日) 11:00～11:40

会場 十和田市現代美術館 企画展示室

参加料 無料

※要企画展チケット

4-3 共通企画

(1) 栗林隆 《元気炉》「Aomori GENKI-RO Trip」

栗林隆による《元気炉》の展示が5館を巡回。原子炉の形状をした構造体に薬草の香りを帯びた蒸気を発生させた《元気炉》を各館の特徴的な場所で展示した。さらに「Aomori GENKI-RO Trip」と題して、音楽家の辰田翔と青森の各地域に伝わる郷土音楽からジャズ、クラシックなど地元で活動する奏者たちとのライブ演奏を実施。また写真家で映像作家の志津野雷の映像作品を上映した。《元気炉》は本フェスのテーマである「つらなりのはらっぱ」を体現するように、青森県内の5館を旅し、各地域に継承される伝統文化や人々との交流をかさねながら、本フェスのフィナーレを飾った。



■ 栗林隆 プロフィール

現代美術家。1968年、長崎県生まれ。東西統合から間もない1993年よりドイツに滞在、その頃より「境界」をテーマにドローイング、インスタレーション、映像など多様なメディアを使いながら作品を発表。現在は日本とインドネシアを往復しながら国際的に活動する。主な展覧会に、2022年、ドクメンタ15 (Takashi Kuribayashi+Cinema Caravanとして)、カッセル、ドイツ。2019年、瀬戸内国際芸術祭2019「伊吹の樹」、伊吹島、香川。2018年「パレ・ド・トーキョー Enfance/こども時代」展、パレ・ド・トーキョー、フランス、パリ。2012年、個展「Water >|< Wasser」十和田市現代美術館、青森など。



■ 青森県立美術館

展示日時	2024年8月9日(金)～8月11日(日) *8/10はナイトミュージアム開催、夜間開館
展示場所	創作ヤード(屋外トレンチ)
作品稼働日	8月9日(金) 18:00～21:00 / 8月10日(土) 18:00～21:00
イベント内容	<p>8月9日(金) 発掘現場からインスパイアされた屋外トレンチ(創作ヤード)に《元気炉》を設置、中で葉草の香りをおびた蒸気を浴びる体験とともに、美術館の壁面には志津野雷による映像が投影され、音楽家の辰田翔と県庁ねぶた実行委員会囃子方のコラボレーションによるライブ演奏が行われた。また、1F 4番入口前に「青い森珈琲焙煎所」(キッチンカー)が出店、コーヒー、リンゴジュース、軽食等を提供した(10日も同様)。</p> <p>8月10日(土) 県立美術館ナイトミュージアムのため夜間開館。創作ヤードでの《元気炉》体験、映像の投影が行われた。</p> <p>8月11日(日) 元気炉の展示のみ行われた。</p>
地元演奏者	青森県庁ねぶた実行委員会囃子方
参加店舗	青い森珈琲焙煎所
《元気炉》担当者	池田亨、荒木泰久、葦島聖人、櫻庭絢
イベント参加数	約200名



展示の様子



演奏の様子



映像投影の様子

■ 青森公立大学 国際芸術センター青森

展示日時	2024年8月14日(水)～8月15日(木) 10:00～20:00
展示場所	国際芸術センター青森 展示棟 水のテラス付近
作品稼働日	8月14日(水)～8月15日(木) 両日18:00～20:00
イベント内容	岩手県奥州市を拠点に、多くの音楽イベントに出店してきたサッコ食堂による焼き鳥とドリンクの販売を2日間行った。15日には南部町から民謡ユニットである青森うぐいす姉妹を招き、辰田翔との音楽ライブを行った。
地元演奏者	青森うぐいす姉妹
参加店舗	サッコ食堂
《元気炉》担当者	瀬藤朋
イベント参加数	約100名



展示の様子



演奏の様子



映像投影の様子

■ 八戸市美術館

展示日時	2024年8月18日(日)・19日(月)・21日(水) 10:00~19:00 / イベント 8月18日(日) 19:00~21:00
展示場所	八戸市美術館 スタジオ
作品稼働日	展示のみ
イベント内容	5館で唯一、本作を屋内で展示した八戸市美術館では、本作が展示された「ドクメンタ15」でのドキュメント映像作品“Beyond documenta”（映像：志津野雷、音楽：辰田翔）とともに作品を展示。 イベントでは、作品鑑賞に加えて、映像作品を八戸スペシャルとしてアレンジし、八戸郷土芸能とのコラボによる生演奏を披露。館内外で飲食店の出店、マエニワでは演奏の生中継もあり、美術館の内外が賑わった。
地元演奏者	八戸郷土芸能の団体
参加店舗	たなぶ酒販、カネイリミュージアムショップ、香彩珈琲みな実、Pizza217
《元気炉》担当者	平井真里、山内伶奈
イベント参加数	約140名



映像投影の様子



室内展示の様子



演奏と映像の様子

■ 十和田市現代美術館

展示日時	2024年8月24日(土)ー8月25日(日)
展示場所	美術館 前庭
作品稼働日	8月24日(土) 17:00~19:00
イベント内容	8月24日(土) 17:00~19:00 地元演奏者のea-Z's《い〜爺〜ず》と音楽家の辰田翔・篠田ミルが出演する音楽イベントを実施。併せて美術館併設のカフェcubeでは営業時間を延長し、ソフトドリンクやアルコール、栗林隆の関連グッズを販売。《元気炉》周辺には、手押し車に木造の屋台テーブルを乗せた同作家の作品《YATAI》2台(十和田市現代美術館・松本茶舗蔵)を展示し、《YATAI》を囲みながらドリンクを提供。また、カフェ内と美術館の外壁には、ドクメンタ15での《元気炉》の様子を撮影した志津野雷による映像作品を上映した。
地元演奏者	クラシックギターデュオ ea-Z's《い〜爺〜ず》
ゲスト演奏者	辰田翔(音楽家)、篠田ミル(音楽家)
参加店舗、協力	十和田サウナ、松本茶舗
《元気炉》担当者	葛西あいか(アシスタントキュレーター)、土井太陽(コンシェルジュ)
イベント参加数	約60名



展示の様子



演奏の様子



映像投影の様子

■ 弘前れんが倉庫美術館

展示日時	2024年8月28日(水)－9月1日(日)
展示場所	土淵川吉野町緑地(弘前れんが倉庫美術館前)
作品稼働日	8月30日(金)－9月1日(日) 全日17:00～20:00 *8月30日、31日は夜間開館
イベント内容	<p>8月30日(金) 3日間を通して、栗林隆《元気炉》の体験を提供すると共に、同じ緑地内でL PACK.によるイベントを同時開催した。《元気炉》に関連して、ねぶた囃子方の弘前市七夕会と音楽家の辰田翔によるコラボレーションのライブ演奏を実施。写真家・映像作家の志津野雷、写真家の岩根愛による映像作品を上映した。この他、弘前サウナ倶楽部によるDJパフォーマンスが行われた。</p> <p>8月31日(土) 美術館隣接のカフェでは、音楽家の蓮沼執太によるサウンド・パフォーマンスが開催された。</p> <p>9月1日(日) 辰田翔、太鼓演奏家の茂呂剛伸によるライブ演奏を行った。志津野雷が「Aomori GENKI-RO Trip」を撮影した写真をスライドショーで上映した。併せて、弘前サウナ倶楽部とchappieによるDJパフォーマンスを実施。</p>
地元演奏者	弘前市七夕会、弘前サウナ倶楽部、chappie
ゲスト演奏者	茂呂剛伸(太鼓演奏家)
《元気炉》担当者	木村絵理子、澤田諒
イベント参加数	約600名



展示の様子



演奏の様子



映像投影の様子(撮影:成田写真事務所)

(2) ラーニングプログラム

未来を担う世代を対象に、現代アート作品との出会いをきっかけに多様なものの見方や解釈、価値観に触れ、深く考えることのできる機会として、「鑑賞」を軸とした各種プログラムを行った。実施にあたっては5館のラーニング担当者が連携し、それぞれが自館で取り組んできた教育プログラム、学校・地域連携のノウハウやアイデアを共有しながら協議を重ね、企画をつくり上げた。

■ GOKAN ファイルブック

小学校4～6年生を対象とした鑑賞サポートツール「GOKAN ファイルブック」を制作し、アートフェス期間中、来館者への配布とあわせて、開催4市（青森市エリア* / 弘前市 / 八戸市 / 十和田市）の対象児童全員に配布。本ツールは、美術館・アートセンターでの過ごし方や楽しみ方のアイデアが詰まった共通の小冊子と、展覧会やプロジェクトに関する各館ごとの鑑賞シート、それらを収納して持ち運ぶためのポケットフォルダーで構成されている。鑑賞シートには、作品と向き合うきっかけとなるような提案や問いかけ、やさしい解説を収載するほか、気づいたことや考えたことを直接書き込むことができるなど、こどもたちが主体的に鑑賞に取り組めるよう工夫を凝らした。

* 青森市、外ヶ浜町、中泊町



<概要>

発行	2024年6月30日
印刷部数	[小冊子・ポケットフォルダー] 25,000部 [鑑賞シート] 青森県立美術館 2種 × 各1,000部 青森公立大学国際芸術センター青森 2種 × 各500部 弘前れんが倉庫美術館 2種 × 各1,500部 八戸市美術館 1種 1,500部 十和田市現代美術館 2種 × 各3,000部
編集	青山真樹 (十和田市現代美術館)
執筆	山内久 (青森県立美術館) / 慶野結香、瀬藤朋 (青森公立大学国際芸術センター青森) / 宮本ふみ (弘前れんが倉庫美術館) / 平井真里 (八戸市美術館) / 青山真樹 (十和田市現代美術館)
イラスト・デザイン	マエダユウキ



■ 高校生サマープログラム

青森県内の高校生および高校教員を対象に、主体的に深く思考し、自他と向き合う中で新たな考えを生み出す体験を目指して、共通作品の栗林隆《元気炉》の鑑賞と哲学対話を組み合わせたプログラムを実施。哲学研究者の永井玲衣氏を講師に迎え、作品を起点に参加者それぞれが感じた疑問や引っかかり、もやもやについて、「なぜ?」「そもそも?」と尋ね合いながら、それらを「問い」として深めていくワークショップを行った。プログラム終盤では、挙がった多数の問いの中から「“気まずさ”と“元気”って共存できる?そもそも“元気”ってどういう状態?」をテーマとした対話の時間を設け、改めて各自がじっくりと考えながら、互いの言葉をきき合った。



<概要>

実施日時	2024年8月10日(土) 13:30~16:00																									
会場	青森県立美術館 スタジオ																									
ゲスト講師	永井玲衣(哲学研究者)																									
企画・運営	慶野結香、瀬藤朋(青森公立大学国際芸術センター青森) / 宮本ふみ(弘前れんが倉庫美術館) / 平井真里(八戸市美術館) / 青山真樹(十和田市現代美術館)																									
協力	青森県高等学校教育研究会美術工芸部会																									
参加者	22名 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>【学年別】</p> <table border="1"> <caption>【学年別】</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>5名</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>9名</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>3名</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>5名</td> <td>23%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【所属校地域別】</p> <table border="1"> <caption>【所属校地域別】</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青森市</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>八戸市</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>むつ市</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>五所川原市</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	学年	人数	割合	1年生	5名	23%	2年生	9名	41%	3年生	3名	13%	教員	5名	23%	地域	人数	青森市	14名	八戸市	4名	むつ市	2名	五所川原市	2名
学年	人数	割合																								
1年生	5名	23%																								
2年生	9名	41%																								
3年生	3名	13%																								
教員	5名	23%																								
地域	人数																									
青森市	14名																									
八戸市	4名																									
むつ市	2名																									
五所川原市	2名																									

5. 周遊チケット

青森県立美術館、弘前れんが倉庫美術館、十和田市現代美術館の3会場の有料展覧会をお得に鑑賞できるチケットと公式ガイドブックをセットにした周遊チケット（電子チケット）をアート・コミュニケーションプラットフォーム「ArtSticker（アートスティッカー）」を通して販売を行った。

観覧料が無料の2会場（青森公立大学 国際芸術センター青森、八戸市美術館）では、ノベルティ（クリアファイル、缶バッジ）を作成し、窓口で周遊チケットを提示した方にプレゼントを実施。5館周遊を促した。

公式ガイドブック付き5館周遊チケット 3,700円

※オンライン（ArtSticker）販売のみ（電子チケット）
※一般のみ



周遊チケットの販売数および売上額は以下のとおり。

チケット販売数	チケット販売売上額
1,036件	3,833,200円

<周遊チケット対象展覧会>

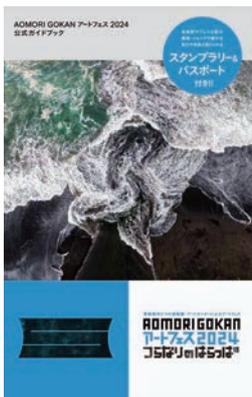
有料	青森県立美術館	<input type="radio"/> 「かさなりとまじわり」 <input type="radio"/> コレクション展
	弘前れんが倉庫美術館	<input type="radio"/> 「蜷川実花展 with EiM：儚くも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」 <input type="radio"/> 弘前エクスチェンジ #06 「白神視見考」
	十和田市現代美術館	<input type="radio"/> 「野良になる」 <input type="radio"/> 常設展示
無料	青森公立大学 国際芸術センター青森	<input type="radio"/> 「currents/undercurrents —いま、めくるめく流れは出会って」
	八戸市美術館	<input type="radio"/> 「エンジョイ!アートファーム!!」

メイン企画 その他対象展示

6. 公式ガイドブック

各館の展覧会情報に加え、美術館が位置するエリアの観光やグルメスポット、おすすめの周遊モデルコースなど、アートを起点に県内の周遊を目的とした公式ガイドブックを制作。各館のミュージアムショップ（青森公立大学 国際芸術センター 青森を除く）、青森県内の書店、並びにオンラインで販売した。販売数は以下のとおり。

ガイドブック販売数
7,565冊



定価：1,300円



青森のご当地グルメやおすすめスポットを紹介



アートとともに青森を満喫できる周遊モデルコースを掲載

■ ガイドブック特典「スタンプラリー＆パスポート」

県内の周遊を促すための施策として、5館全てに来館するとオリジナルグッズがあたるスタンプラリーと、美術館やフェスサポーターの店舗、施設で割引や特典が受けられるパスポートをガイドブックに付属。

特典 1	会期中、パスポートを提示した方に、青森県立美術館、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館の対象展覧会の観覧料を割引。パスポート1枚につき20名様まで有効。
特典 2	フェスサポーターに登録しているショップや施設にて、パスポートを提示した方に、さまざまな割引やサービスを提供。
特典 3	5館すべてに来館しスタンプを集めた方に、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 オリジナルグッズを抽選でプレゼント。 【賞品】りんごキーホルダー…200名 / アートフェスグッズセット…A賞20名、B賞30名、C賞50名(合計100名)

スタンプラリー 応募数
484通

各美術館・アートセンターに設置の応募箱に投函または郵送にて応募



スタンプラリー＆パスポート



応募箱



りんごキーホルダー

7. 広報・宣伝

総括

青森県で5つの現代美術館・アートセンターが連携して開催する初のアートイベントとして、県内のメディア、アート専門媒体、全国メディアへパブリシティを展開した。美術館を核に、県と4つの市が中心となりアート鑑賞と周遊を促すアートプロジェクトが他では例がないことから注目度が高かった。2020年度から実施した青森アートミュージアム5館連携協議会での広報活動が基盤となり、ゆるやかにメディアやアートファンに周知されていたことで、3回に分けて実施したプレスツアーでは青森県内の観光スポットの紹介とあわせてアート、トラベル、ライフスタイル誌など主要なメディアが参加し、特集につながった。機内誌、JR(新幹線)の車内誌へ特集が生まれ、アートと旅というテーマで青森観光への気運も高まり、認知度向上への大きな後押しになった。リリースは2023年9月の開催発表以降、9回にわたり約1,370名の全国、青森県、東北エリアのメディア関係者に配信を行った。あわせて来場セレモニーの様子を中心にニュースレターを5回に渡って配信。PRタイムスも活用しながら広くメディア関係者への周知を行った。結果新聞、雑誌、テレビ、WEB等で1,344件のメディアの露出と、約7億1,470万円の広告換算額となった。SNSの広告をエリア別、年齢別にテレビ、WEB、開幕前から5回に分けて実施した。今後インパウンドの増加にむけ、海外メディアへの更なる周知が重点課題となる。142日間に及ぶ会期中、30万3,265人が来場し目標を達成。青森の地に根差して活動する各館のキュレーターが協働し、展覧会やプロジェクトなど、それぞれの館の特徴を活かした多様なプログラムを実施し、開催地の周遊につなげるという、これまでにない本アートフェスは、持続可能な新しいアートイベントとして定義できた。アートフェス終了後も各館の特徴やポテンシャルを発揮しながら、ゆるやかな「つらなり」を通じ、5館による継続的な連携に取り組みたい。

7-1 活動実績

■ 記者発表

本フェスの開催告知の周知を目的に、東京と青森の2会場で実施した。

- ・2023年11月6日(月) 都道府県会館(東京会場)
- ・2023年11月8日(水) 青森県立美術館(青森会場)

記者発表会では、杉本委員長の挨拶を筆頭に、各館の紹介を映像ビデオで紹介後、工藤学芸員(青森県立美術館)より本フェスのテーマについて発表。引き続き、各館の学芸員よりメイン企画の概要説明を行った。弘前れんが倉庫美術館から参加作家、狩野哲郎氏も参加。あわせてロゴをデザインした野間真吾氏よりコンセプトを説明し、今後実施予定のタイアップ、関連情報を案内した。東京と青森の2会場で実施したことで、アート、旅行系の全国媒体、並びに県内の地元メディアへの告知が実現できた。



東京会場



青森会場



■ PRツールの作成と配信

プレスリリースを、開催告知から会期前、閉幕直前、閉幕后と段階的に約1,370名に対し情報配信を行った。10万人から各館で来場セレモニーを実施。ニュースレターを作成し県内メディアを中心に情報提供、取材へつなげた。

<プレスリリース>

・VOL.1 開催告知	2023年9月19日
・VOL.2 開催概要、各展示発表	2023年12月6日
・VOL.3 共通企画発表	2024年2月14日 <広報画像申請書>
・VOL.4 関連企画、グッズ発表	2024年3月14日
・VOL.5 開幕発表	2024年4月26日 <広報画像申請書>
・VOL.6 共通企画展示スケジュール	2024年6月20日 <広報画像申請書 更新>
・VOL.7 関連企画	2024年8月9日
・VOL.8 共通企画スタート	2024年8月19日
・VOL.9 閉幕	2024年9月4日

<ニュースレター>

・10万人来場	2024年6月20日
・15万人来場	2024年7月18日
・ラーニング	2024年7月18日
・20万人来場	2024年8月7日
・25万人来場	2024年8月28日

■ プレスツアー

展示内容、開催地の情報を伝えるため、開幕直後と会期後半に実施した、栗林隆《元気炉》の巡回を機にプレスツアーを実施した。現地での取材を通して、展示や会場の様子をリアルに伝えることができた。あわせて開催地域の観光、食についても取材の機会を設定し、県、開催市のPRにつなげた。



ツアー内容	行程	実施日	媒体
第1回 5館展示取材ツアー	1泊2日	4月12日(金)・13日(土)	5
第2回 5館展示と周遊取材ツアー	2泊3日	4月25日(木)・26日(金)・27日(土)	6
第3回 栗林隆 元気炉5館巡回開幕	1日	8月9日(金)	8

<プレスツアー 参加メディア>

媒体名	社名	掲載・発行日
WEB美術手帖	CCCメディアハウス	4月12日
TOKYO ART BEAT	Tokyo Art Beat	4月13日
美術展ナビ	読売新聞社	6月18日
FIGARO.jp	CCCメディアハウス	5月25日
月刊MOE	白泉社	7月3日
Pen Online	CCCメディアハウス	6月24日(青森市) 7月3日(弘前、十和田、八戸)
旅行読売	旅行読売出版社	5月8日
Casa BRUTUS.com	マガジンハウス	7月29日(青森県立美術館、ACAC) 7月30日(弘前れんが倉庫美術館) 7月31日(十和田市現代美術館) 8月1日(八戸市美術館)
SPUR	集英社	6月23日
25ans	ハースト婦人画報社	6月28日
WEB美術手帖	CCCメディアハウス	5月30日
青い日記帳	アートプロガー	8月10日
T JAPAN	集英社	8月21日
TOKYO ART BEAT	アートビート	8月9日
Art News Japan	MAGUS	8月17日
女性自身	光文社	8月20日
アート嘸	アトライター	8月12日
Sfumart	ミュージアムマン	8月16日
artscape	DNPアートコミュニケーションズ	8月26日

■ PR イベント

(1) オープニング

県内外のプレス、関係・協力者を招き青森県立美術館のアレコホールにてオープニングイベントを実施した。当日は宮下青森県知事ほか開催エリアの各市長、各館の館長、アーティストらが出席。セレモニー終了後は、会場の内覧、レセプションを実施。NHKを含む県内のテレビほか、アートメディアなど、開催情報が発信された。

実施日：2024年4月12日(金)



(2) クロストーク

開幕記念として参加作家によるトークイベントを青森県立美術館、シアターにて実施した。本フェスのテーマのコンセプト、各作家からは自身の作品の解説をクロストーク形式で行った。予約不要・入場無料

実施日：2024年4月14日(日)

トークテーマ	登壇	モデレーター
第一部「はらっぱとしての青森」	青木淳、岩根愛、栗林隆	木村絵理子
第二部「生の連なりとアート」	井田大介、狩野哲郎、東方悠平、アナイス・カレニン	慶野結香



(3) アートフェス・[共通企画] 巡回 最終日(弘前れんが倉庫美術館)

[共通企画] 栗林隆《元気炉》の5館最終巡回先である弘前れんが倉庫美術館にてアーティスト、関係者らが参加し、142日間に及ぶ会期を終了し最終日を迎えた。

実施日：2024年9月1日(日)



撮影：小山田邦哉 (P51、52 すべて)

7-2 掲載実績

総括

- ・ 全国区を対象にアート系メディア、ライフスタイル誌のWEB媒体へ幅広く展開された。
- ・ 5館の展示と、開催エリア周辺の取材をあわせた2泊3日のプレストツアーを実施したことで、開催地別に紹介され、アートと観光、両面から青森とアートの魅力を発信できた。
- ・ JALの機内誌、新幹線の車内誌へ特集が生まれ、観光、ビジネスユーザーの両者へフェスの開催告知を周知できた。
- ・ 青森県内のテレビ、新聞では、開催イベントの情報のほか、学芸員によるリレー形式の記事、十和田市現代美術館、鷺田館長の寄稿による5館の連載記事が掲載された。

<掲載数(媒体種別)>

掲載 総数	テレビ	新聞			WEB				雑誌(広報・業界紙含む)		
	青森県	全国	青森県	東北	全国	青森県	東北・北海道	その他の地域	全国	青森県	東北・北海道
1,344	24	3	49	5	737	62	62	342	46	9	5
	24	57			1,203				60		

<主な掲載 | テレビ>

放映日時			番組名	放送局	内容
2023年	11月3日	18:55~18:57	ハレのちあした	青森朝日放送	青森県内の美術施設が合同で「アートフェス」2024年4月から開催
2024年	3月17日	17:00~17:15	大好き、青森県	青森放送	青森放送
	4月12日	18:38~18:40	RAB ニュースリーダー	青森放送	オープニングセレモニーの様子、杉本館長インタビュー
		20:50~20:53	あっぷるワイド	NHK 青森	オープニングセレモニーの様子
		18:55~18:57	ハレのちあした	青森朝日放送	オープニングセレモニーの様子、栗林氏、蛭川氏インタビュー
	4月24日	16:16~16:18	1550 ニュースリーダーwith	青森放送	「かさなりとまじわり」5,000人
	6月17日	18:19~18:24	あっぷるワイド	NHK 青森	青森県立美術館
	6月20日	18:15~18:16	1550 ニュースリーダーwith	青森放送	10万人セレモニー
		11:51~11:52	ひるおび内「ATVニュース」	青森テレビ	10万人セレモニー
	6月21日	18:19~18:24	あっぷるワイド	NHK 青森	弘前れんが倉庫美術館
	7月12日	16:35~16:36	1550 ニュースリーダーwith	青森放送	ペア招待券・公式ガイドブックプレゼント
		16:46~16:47	わっち!!	青森テレビ	ペア招待券・公式ガイドブックプレゼント
	7月17日	18:42~18:44	ハレのちあした	青森朝日放送	15万人セレモニー
8月7日	18:46~18:47	RAB ニュースリーダー	青森放送	15万人セレモニー	

<主な掲載 | 新聞>

掲載日	媒体名	発行元	内容	
2023年	11月12日	読売新聞	読売新聞社	東京記者発表の内容
2024年	5月1日	公明新聞	公明新聞社	GOKANアートフェス
	5月2日	陸奥新報	陸奥新報社	弘前れんが倉庫美術館来場者1万人達成
	5月10日	東奥日報	東奥日報社	驚田めるろのあおもりアート探訪
	5月12日	北鹿新聞	北鹿新聞社	イベント散歩
	5月14日	デーリー東北	デーリー東北新聞社	十和田市現代美術館で来場者1万人
	6月3日	読売新聞	読売新聞社	あおもりの旬の人(木村絵理子さんについて)
	6月11日	東奥日報	東奥日報社	ACACで野外ライブ
	6月14日	朝日新聞	朝日新聞社青森総局	八戸、市民参加型アート
	7月13日	東奥日報	東奥日報社	県内5施設で「GOKAN ファイルブック」
	7月24日	陸奥新報	陸奥新報社	弘前で「アート×弘前の建築」
	8月9日	デーリー東北	デーリー東北新聞社	八戸で20万人セレモニー
	8月12日	東奥日報	東奥日報社	十和田で入場者3万人
	8月28日	デーリー東北	デーリー東北新聞社	入場者5館25万人突破
	9月2日	東奥日報	東奥日報社	県美で「青森の合唱」
9月16日	陸奥新報	陸奥新報社	県内5美術施設初のアートフェス 連携効果入場者30万人 当初の目標大きく上回る	

<学芸員によるリレー形式の記事掲載 | 新聞>

デーリー東北新聞社に、5館の学芸員のリレー方式により記事を計17回寄稿した。

掲載日	No.	執筆担当	執筆テーマ	
2024年	4月24日	1	青森県立美術館	アートフェス開幕「新しい形の『体験+観光』」
	5月1日	2	青森県立美術館	開幕記念クロストーク「多くの対話 発生に期待」
	5月8日	3	国際芸術センター青森	ACACメイン企画の特色「同一作者で“二つ”の展覧会」
	5月15日	4	弘前れんが倉庫美術館	地域と共存する桜「人間と自然 境界を探る」
	5月22日	5	八戸市美術館	表情変える空間「共に創る“こと”楽しむ」
	6月5日	6	十和田市現代美術館	「野良」に込めた思い「人と自然、二項対立問う」
	6月12日	7	青森県立美術館	かさなりとまじわり「現代のネット社会表現」
	6月19日	8	国際芸術センター青森	鑑賞ツール配布「子どもと作品の接点に」
	6月26日	9	弘前れんが倉庫美術館	山の営み「多層的に存在 白神観見考」
	7月3日	10	八戸市美術館	周遊「地域の持つ魅力 再発見」
	7月10日	11	十和田市現代美術館	ラーニングプログラム「見る、考える、対話する」
	7月17日	12	青森県立美術館	戦後の前衛美術「影響受けた作品群展示」
	7月24日	13	国際芸術センター青森	展示替えを経て「自然への意識問い直す」
	8月7日	14	弘前れんが倉庫美術館	《元気炉》「共鳴する力を生み出す」
	8月14日	15	八戸市美術館	活動の軌跡「変化を続ける企画を紹介」
	8月21日	16	十和田市現代美術館	料理作品「動植物との関係考え直す」
	9月4日	17	青森県立美術館	5館共通企画「連携広がるきっかけに」

毎週水曜日掲載（5月29日、7月31日、8月28日は休載）

<主な掲載 | WEB>

掲載日	サイト名	運営元	見出し	
2023年	8月1日	Casa BRUTUS	マガジンハウス	青森の名美術館・5館が連なる。 『AOMORI GOKANアートフェス2024 一つらなりのはらっぱー』初開催決定!
2024年	2月19日	GQ JAPAN	コンデナスト・ジャパン	2024年上半期、注目の芸術祭・アートフェアはこれだ!
	4月19日	Time Out Tokyo	オリジナル	ゴールデンウィークに行くべき芸術祭5選
		SKYWARD	JAL	アートに浸かる青森
	4月24日	まるごと青森	青森県	「アートと花のおでかけスタンプラリー」スポット巡り(十和田編)
	5月14日	Ozmall	スターツ出版	日本一のりんごの町・青森県弘前市へ。美術館や洋館を巡る2泊3日のアート旅
	6月3日	のれそれ青森旅 キャンペーン	星野リゾート	青森県×JAL×星野リゾート共同企画
	6月13日	ことりっぶ	昭文社ホールディングス	4/13-9/1 青森でつらなるアート体験「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」
	6月19日	NHKオンライン	日本放送協会	5つの美術館連携「GOKAN フェス」入場者が10万人突破
	6月20日	コロカル	マガジンハウス	初夏の青森でアートを堪能しよう
	7月3日	Pen Online	CCCメディアハウス	アートとグルメを堪能するなら青森がアツい! Penおすすめの青森旅【弘前編】
	7月12日	Web 東奥	東奥日報社	GOKANのアート楽しんで/フェス実行委が子ども向け鑑賞ガイド
	7月17日	CREA WEB	文藝春秋	5つの美術館を巡る、青森アート旅へ 「青森県立美術館」に行ったら 立ち寄りしたいスポット3選_1
	7月24日	SPUR.JP	集英社	【青森旅行】 『AOMORI GOKAN アートフェス 2024』の楽しみ方から、おすすめスポットまで
	8月2日	25ans	ハースト婦人画報社	アートで感性を刺激する青森の旅【「AOMORI GOKANアートフェス」が初開催!】
8月9日	ORICON NEWS	oricon ME	青森県内5美術施設連携「GOKANアートフェス」 来館者20万人超え、県外からも9月1日まで	
8月23日	T JAPAN	集英社	青森を巡って人々を元気にさせる アート作品に会いに行こう	
8月26日	Tokyo Art Beat	アートビート	【2024年版】シルバーウィークに見たい展覧会12選(東日本編)	

ウェブ版 美術手帖



Casa BRUTUS.com



madame FIGARO jp



Pen Online



CREA Web



NHK 青森 WEB



八戸経済新聞 WEB



<主な掲載 | 雑誌>

掲載日	媒体名	発行元	掲載内容	掲載スペース	
2023年	12月7日	じゃらん 大人のちょっと贅沢な旅	リクルート	新型アートフェスを目当てに地域豊かな青森の魅力を巡る	カラー 4P
	12月15日	日経 TRENDY	日経BP社	2024年の主な芸術祭	カラー 1/6P
2024年	3月3日	北海道生活	えんれいしゃ	アートと花に包まれる、春の青森へ。	カラー 4P
	3月10日	中小企業あおもり	青森県中小企業団体中央会	[青森アートフェス2024]で周遊・滞在を促進	カラー 1P
	3月19日	Harper's BAZAAR	ハースト婦人画報社	青森を巡って体感するアートアート青フェスへ	カラー 2/3P
		月刊美術	サン・アート	インフォメーション「開催情報」	モノクロ 1/2P
		美術の窓	生活の友社	インフォメーション「開催情報」	モノクロ 1/2P
	3月22日	オズマガジントリップ 差し込み小冊子	スターツ出版	春から始まるアートフェスへ行こう!	カラー 5P
	3月28日	ELLE	ハースト・デジタル・ジャパン	Upfront「ART」	カラー 1/3P
	4月1日	e'Clat	集英社	MUSEUM 出会い発見ワクワクに満ちた初の機会	カラー 1/3P
	4月10日	旅の手帖	交通新聞社	列島 Information	カラー 1/4P
	4月16日	一個人	一個人出版	INFORMATION	カラー 1/6P
	4月25日	rakra	川口印刷工業	AOMORI GOKAN アートフェス 2024×花	カラー 2P
	5月1日	Kappo 仙台闊歩	プレスアート	SCOPE 5つのスポットでアートと文化を楽しむ 新形態のアートフェスがスタート	カラー 2P
		GQ JAPAN	コンデナスト・ジャパン	LIFESTYLE	カラー 1/8P
		和楽	小学館	出かけてナンボ!のオススメアートイベント	カラー 1P
	5月10日	クロワッサン	マガジンハウス	5つの美術館で開催される初めてのアートフェス	カラー 1P
	6月1日	青森県観光ガイドブック 2024 夏・秋 あおもり紀行	青森県観光国際交流機構	5館がつらなる初開催のアートフェスへ	カラー 2P
		トランヴェール	ジェイアール東日本企画	旅する北の考現学	カラー 1/6P
6月23日	SPUR	集英社	アートな感性で旅する青森	カラー 5P	
6月27日	SKYWARD	日本航空 (JALブランドコミュニケーション)	アートに浸かる青森	カラー 7P	
6月28日	旅行読売	旅行読売出版社	青森でアートに触れ、作品を生んだ自然に和む	カラー 3P	
	25ans	ハースト婦人画報社	アートフェス初開催!アートで感性を刺激する旅	カラー 10P	
7月3日	月刊 MOE	白泉社	青森アートとクラフトの旅	カラー 4P	

【雑誌】

SPUR 全5P



25ans 全10P



ELLE



Harper's BAZAAR



クロワッサン



オズマガジントリップ [差し込み小冊子] 全5P



【機内誌・トラベル】

SKYWARD [JAL機内誌] 全6P



旅行読売 全3P



じゃらん大人のちょっと贅沢な旅 全4P



【東北・青森県内】

仙台闊歩 全2P



青森県観光ガイドブック 全2P



中小企業あおもり



7-3 宣伝・プロモーション

総括

青森県内に向けては東奥日報、陸奥新報、デーリー東北新聞の3紙で開幕、共通企画巡回のタイミングにあわせ広告出稿を展開。テレビCMも各局で実施した。また会期中盤から後期に向け、青森県周辺からの集客を目的に近県エリアを対象とした広告出稿を行った。仙台を中心に販売する「KAPPO仙台闊歩」での取材記事出稿とあわせ、県内および東北各県のキー局にてテレビCMを展開。一部では美術館でのロケを実施し、夏休み期間から閉幕に向けての集客促進につなげた。ほかタイアップポスターを各種作成し、JR、NEXCO東日本との連携を通して、フェス開催の告知を広く実施した。

(1) 新聞広告

青森県内の3新聞社に計2回広告を掲載。

掲載日	媒体名	掲載スペース	掲載内容
2024年4月13日(土)	東奥日報社	全5段広告・フルカラー	開催告知等
	デーリー東北新聞社		
	陸奥新報社		
2024年7月27日(土)	東奥日報社	全5段広告・フルカラー	共通企画《元気炉》告知等
	デーリー東北新聞社	全5段広告・モノクロ	
	陸奥新報社		

青森県内5つの美術館・アートセンターによるアートフェス、本日開幕！

本日より3日(土)～9月1日(日)：メイン企画

- 青森県立美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月22日(日)／9月13日(土)～9月22日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 青森県立大学 芸術創造センター**
 - 期間：9月13日(土)～9月20日(日)／9月13日(土)～9月20日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 弘前市立美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 八戸市美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 十和田市代表美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00

お好きな旅行・関連チケットやアートフェス詳細情報はこちら！

青森県内5つの美術館・アートセンターで開催中のアートフェス、9月1日(日)迄！

本日より3日(土)～9月1日(日)：メイン企画

- 青森県立美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月22日(日)／9月13日(土)～9月22日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 青森県立大学 芸術創造センター**
 - 期間：9月13日(土)～9月20日(日)／9月13日(土)～9月20日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 弘前市立美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 八戸市美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00
- 十和田市代表美術館**
 - 期間：9月13日(土)～9月15日(日)
 - 時間：10:00～17:00

お好きな旅行・関連チケットやアートフェス詳細情報はこちら！

(2) テレビ出稿

① 青森県内に向けたテレビ出稿

青森県内で放送される民報3局で、以下7パターンのテレビCM出稿を計453回行った。

実施期間：2024年7月5日(金)～9月1日(日)

内容(各1本15秒)		放映回数	
メイン企画	各館5パターン	青森放送	148回
共通企画《元気炉》	1パターン	青森朝日放送	230回
共通企画《ラーニングプログラム》	1パターン	青森テレビ	75回

② 東北圏内に向けたテレビ出稿

隣県3県の民放5局を対象に、テレビCM・パブリシティの出稿を行った。

実施期間：2024年7月30日(火)～8月20日(火)

放送局	テレビCM	パブリシティ
テレビ岩手(岩手県)	7月30日(火)～8月20日(火)	「5きげんどようび」
IBC岩手放送(岩手県)		「じゃじゃじゃTV」生中継
岩手めんこいテレビ(岩手県)		「8っぴーインフォ」
秋田朝日放送(秋田県)		「サタナビっ!」
仙台放送(宮城県)		「MiMiよりマーケット」

(3) WEB出稿

東北エリアからの集客を目的としたWEB出稿を計2回実施した。

掲載日：第一弾・第二弾 2024年8月13日(火)

媒体名：Kappo 仙台闊歩



第一弾



第二弾



7-4 タイアップ

■ JRとのタイアップ

(1) JR北海道駅等へのポスター掲出

JR北海道管内18駅に「アートフェス×ツガルカイセン」のタイアップポスターの掲出を依頼。

実施期間：2024年5月29日(水)ー7月31日(水)



(2) JR東日本駅等へのポスター掲出

JR東日本管内838駅にタイアップポスターの掲出を依頼。

「アートフェス×ツガルカイセン」

実施期間：2024年6月20日(木)ー7月31日(水)

「アートフェス×ひなび」

実施期間：2024年7月17日(水)ー9月1日(日)



ポスター(ツガルカイセン)



ポスター(ひなび)

■ NEXCO東日本とのタイアップ

NEXCO東日本東北支社管内の11サービスエリアに「アートフェス×ドラ割・東北観光バス」のタイアップチラシを配架。

実施期間：2024年7月1日(月)ー9月1日(日)



チラシ(表)



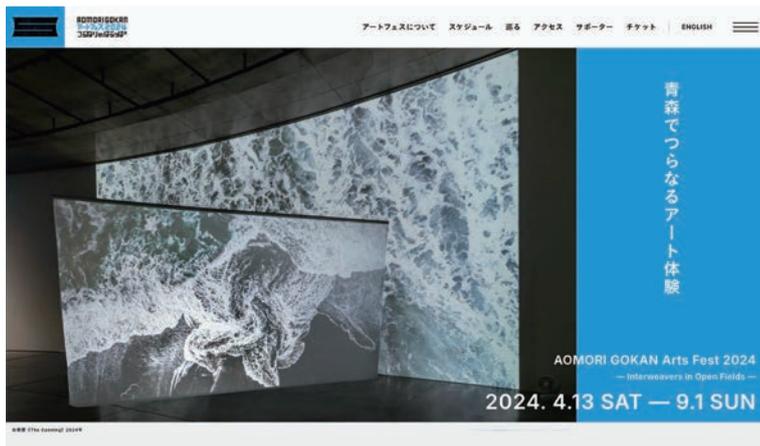
チラシ(裏)

7-5 WEBサイト・SNS

(1) 公式WEBサイト

事前の旅の計画や、開催中に現地で閲覧されることを想定し、スマートフォンでも見やすく、使いやすいサイトの構築、UI設計・デザインを行った。実際に、閲覧者の約8割がモバイル系デバイスからのアクセスであった。

<トップページ>



AOMORI GOKAN アートフェス 2024
公式WEBサイト

<https://aomori-artsfest.com>

■ アート×観光を意識したコンテンツの充実

<巡る>

5館周辺のエリアスポットの紹介(計196件)や、周遊プラン(計11本)を掲載し、5館並びに県内の周遊を促すアプローチを行った。

<アクセス>

全国から現地までのアクセス方法に加え、5館の美術館から各美術館へ移動するためのアクセスを詳しく解説し、利便性を高めた。



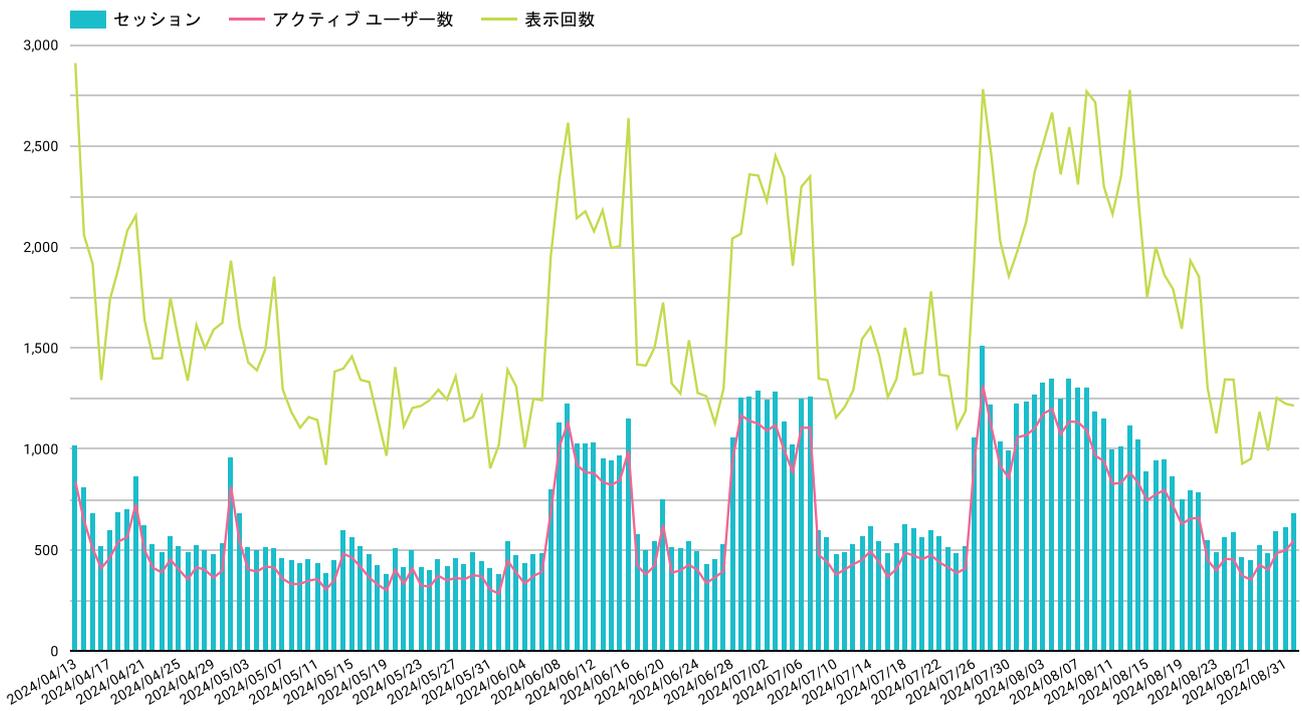
■ 会期中のアクセス (2024年4月13日～9月1日)

アクティブユーザー数 *1	表示回数 *2
77,231	235,216

*1 Google Analytics GA4により解析したウェブサイトへの訪問者数。期間内に同一ユーザーが何度アクセスしても1件と数える。

*2 Google Analytics GA4により解析した「延べ何回ウェブサイトが訪問されたか」を示す数字である。

<アクセス数の推移グラフ>



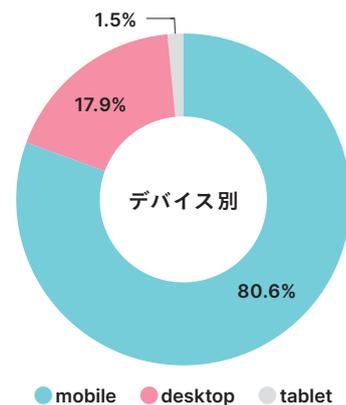
ユーザー数(1日あたり)	表示回数(1日あたり)	ユーザーあたりのページビュー
543人	1,656回	3.1

■ ユーザー属性

※Google Analytics GA4にてカウント可能なユーザーのみを集計

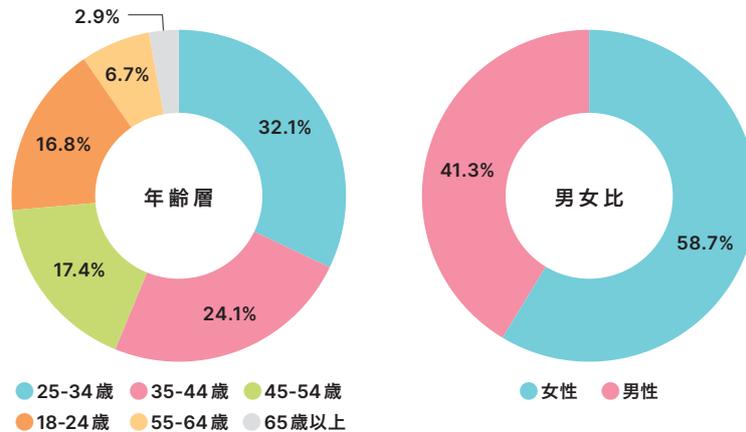
① デバイス

全体の約8割がモバイル系デバイスからのアクセスであった。



② 年齢、性別

最も多かったのはF1層（25-34歳）、続いてF2層（35-44歳）からのアクセスであった。男女比では4：6と女性の方がやや多い結果となった。



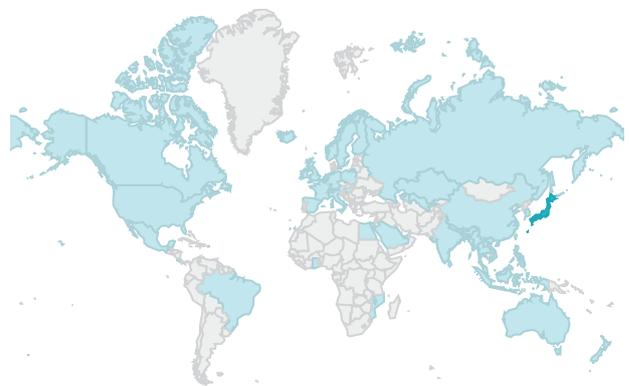
③ 地域

首都圏に対する広報の効果もあり、東京からのアクセスが最も多かった。次いで、青森県内からのアクセスが全体の約2割と非常に高く、県民の注目度の高さが伺えた。また、北海道、岩手、秋田、宮城などからのアクセスも多く、近県からの関心も非常に高かった。

全体の約97%は国内からアクセスしたユーザーで、約3%が国外からのアクセスであった。アメリカ、中国に続き、韓国、台湾、インドネシアなどをはじめとする近隣のアジア諸国ほか、55の国々からのアクセスであった。



地域	アクティブユーザー数
1. Tokyo	30,364
2. Aomori	13,879
3. Hokkaido	8,101
4. Iwate	3,118
5. Kanagawa	2,871
6. Miyagi	2,611
7. Akita	2,429
8. Osaka	2,351
9. Saitama	1,907
10. Chiba	1,408



国	アクティブユーザー数
1. Japan	75,029
2. United States	362
3. China	315
4. South Korea	248
5. Taiwan	205
6. Indonesia	186
7. Hong Kong	150
8. Brazil	139
9. Singapore	122
10. Germany	85

(2) SNS (X、Instagram、facebook)

① SNSの運用

公式アカウント、X、Instagramへアートフェスの展示企画、出展アーティスト、タイアップ、周遊などの周辺情報を発信。東京からの発信とあわせ、青森県在住の編集ライターを起用し、現地の情報を定期配信する他、開幕後は、青森市、弘前市、八戸市、十和田市、それぞれに在住するスタッフが展示の様子や関連企画を取材。その様子をストーリーや、リール動画を制作し、配信計画を立てながら運用を行った。

運用期間：2023年7月～2024年9月1日

X	Instagram	facebook
77投稿	195投稿	
527フォロワー (2024年9月4日時点)	1,410フォロワー (2024年9月4日時点)	*Instagramより自動転載投稿
		

② SNSを活用したプロモーション

チケット購入を目的に開幕前から閉幕まで段階的に、Instagram、TikTokなど発信メディアを変化させながら5回に分けて実施した。配信時期と共に、配信するコンテンツや配信方法、リーチする年代やターゲットなど重層的な告知を行った。

作品の投稿では特に蜷川実花氏の投稿について圧倒的な反応がみられた。投稿期間内に複数のパターンを作成し、一番リーチの多いものを後半には多く配信する仕組みを行った。TikTokの投稿については、若年層へのリーチが実現できた。

<配信レポートからの検証>

- 投稿当初は45～54歳、女性が中心(Instagramの傾向)。エリアは東京より青森県、東北の反応が大きかった。
- 蜷川実花氏の作品への反応は圧倒的だった。ファーストインプレッションの重要性を鑑み、会期後半は目を引く画像を冒頭に出す素材を制作し、WEBへの誘導を図った。
- TikTokは都市圏で反応高いことから東京の若年層、そして男性層が増えた。
- 8月1日～7日夏祭りの1週間はインバウンドを対象に、祭り目的に来日した外国人観光客をアートフェスへ誘導するため、東北エリアを中心にfacebook(外国人はこちらが主流)に投稿。全体的にも8月3日～6日と青森各地で祭りがあった期間は最も高いインプレッション率(投稿回数)をカウントした。次はお盆期間。

<SNS (Instagram、TikTok) への出稿>

■ 開幕前

チケット販売前、開催告知

実施日	2024年2月16日(金) - 25日(日)
掲出先	Instagram
対象	18歳～44歳 ライト層
エリア	青森、東京、埼玉、神奈川



チケット購入誘導 (複数のパターンを作成し、反響の高いものを残す)

実施日	2024年3月22日(金) - 31日(日)
掲出先	Instagram
対象	アート関心、ライター層
エリア	青森、秋田、岩手、宮城、東京、埼玉、神奈川



■ 会期中盤

GW明けから閑散期時期に向け実施

実施日	2024年6月7日(金) - 16日(日)
掲出先	Instagram
対象	18歳～44歳 ライト層
エリア	青森、秋田、岩手、宮城、東京、埼玉、神奈川



■ 夏休み前

夏休みの行き先の計画としての周知

実施日	2024年6月28日(金) - 7月7日(日)
掲出先	Instagram、TikTok、リール動画
対象	18歳～44歳 ライト層
エリア	青森、秋田、岩手、宮城、東京、埼玉、神奈川



■ 夏休み期間

掲出先/ 実施日	Instagram / 2024年7月26日(金) - 8月21日(水) facebook(インバウンド向け)・Instagram / 2024年8月1日(木) - 8月7日(水) TikTok / 2024年7月26日(金) - 8月8日(木)
対象	18歳以上
エリア	青森、秋田、岩手、宮城、東京、埼玉、神奈川



8. 広報物(告知・制作物・サイン関連)

青森5館連携事業のロゴデザインを担当したアートディレクターの野間真吾氏に本フェスのロゴデザイン、メインビジュアルの他、制作物の作成、ディレクションを依頼した。

■ メインロゴ



■ ロゴの展開例



英語 ver.



横 ver.



丸 ver.

■ ロゴコンセプト

“5館が五感を刺激する”フェス

5館の“5”と五感 (Five Senses) の“S”をモチーフにした、AOMORI GOKANのシンボルマークを、フェスの開催にあわせて進化させました。角にGOKANシンボルの遺伝子を受け継ぐロゴタイプを新しく加え、青森の風景や空気感を取り込んでみようという試みから、青森ヒバ材の断面をそのままマークにうつしとった青森の自然に委ねたフェスのための新しいシンボルマークが誕生しました。マークから少しでも“青森の気配”を感じていただくことで、より多くの方々が青森のフェスに足を運んでみたくなる、そんなきっかけにつながればと期待を込めました。

野間 真吾 (NOMA Inc.)

■ 野間 真吾 プロフィール

アートディレクター。大阪府生まれ。ロンドン芸術大学 (London College of Communication MA Graphic Design) 修士課程卒。国内外のデザイン会社を経たのち、2008年株式会社佐藤卓デザイン事務所入社。2017年にデザインオフィスNOMA Inc.設立。

8-1 告知物

■ ポスター・チラシ

フェスのロゴや各館の基本情報を掲載したティザーチラシ、ポスターと、メインビジュアルを使用し、各館のメイン企画やアクセス、ガイドブックやチケット情報などを掲載した本チラシ・ポスターを作成し、全国の美術施設を中心に配布、掲出を行った。

＜主な配布先＞

県内外の美術施設、芸術系学校（高校・大学・専門学校）や、5館が所在する4市（青森市・弘前市・八戸市・十和田市）を中心とする県内公共施設、観光施設、隣接する北海道、秋田県、岩手県の観光施設、協賛企業、協力団体、フェスサポーター など

■ ティザーポスター

■ ティザーチラシ

展開時期：2023年9月



■ 本ポスター

■ 本チラシ

展開時期：2024年3月



■ 共通サイン

青森県立美術館

展開時期：2024年4月



屋外バナー W2970×H4200mm/1部



青森公立大学 国際芸術センター青森

展開時期：2024年4月



屋外バナー W1000×H5400mm/1部



弘前れんが倉庫美術館

展開時期：2024年4月



屋外バナー W3300×H2400mm/1部



左面



右面

弘前駅掲出バナー W2060×H680mm/1部

八戸市美術館

展開時期：2024年4月



ウェブバナー W2135×H1200px、W1500×H1500px

十和田市現代美術館

展開時期：2024年4月



ウィンドウステッカー W1070×H2280mm/1部

全館共通

展開時期：2024年4月



パネル サイズは各館毎にカスタマイズ/5セット

左：八戸市美術館の掲示の様子 右：青森県立美術館の掲示の様子

■ その他

招待券

封筒

ミニのぼり

展開時期：2024年4月



表面 / 上

裏面 / 上

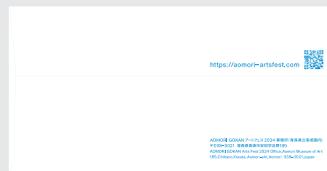
表面 / 下

裏面 / 下

招待券 W80×H356mm 上下二つ折り / 5c1c / 15,000部



表面



裏面

封筒 (オープニング招待状用)
W235×H120mm / 1,000部



ミニのぼり (サポーター配布用)
W150×H400mm / 300本

のぼり

展開時期：2024年8月



のぼり W600×H1800mm / 20本

8-2 公式ガイドブック関連

公式ガイドブック

2024年3月13日発売



公式ガイドブック A5変形/108P/4c/11,100部



表面

裏面

スタンプラリー&パスポート (ガイドブックに付属)

スタンプラリー応募箱

展開時期: 2024年4月



スタンプラリー応募箱
W135×H250×D200mm/5個



りんごキーホルダー (スタンプラリー景品用)
W120×H120×D90mm/300個

8-3 ノベルティ

広報配布用

ステッカー

クリアファイル

展開時期: 2023年11月



表面①



表面②



裏面

ステッカー
W90×H45mm / 全2種/4c1c/各2,000部



表面



裏面

クリアファイル A4/両面/4c/2,000部

周遊チケット特典用

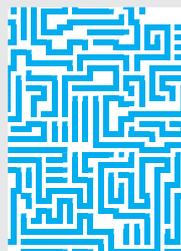
クリアファイル

缶バッジ

展開時期: 2024年4月



表面



裏面

青森公立大学 国際芸術センター青森
クリアファイル A4/両面/4c/2,100部



八戸市美術館 缶バッジ
直径44mm / 全5種/各420個

撮影: 山本康平 (ガイドブック、缶バッジ)

8-4 アートフェス公式グッズ

アートフェス公式グッズとして15種のオリジナルグッズを制作。県内出身のイラストレーター・工藤陽之氏にパッケージのイラストを依頼し、県内のメーカーとコラボレーションした商品の開発も行なった。2024年4月13日の開幕から、ミュージアムショップを中心に県内のショップや、イベント、本フェスの公式ウェブサイト等で販売を行った。



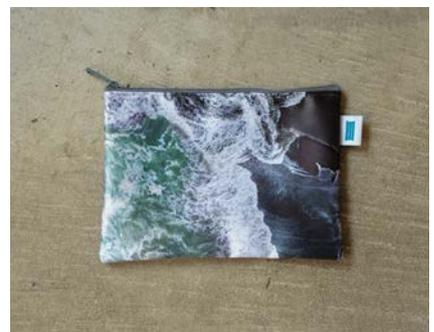
撮影：小山田邦哉



トートバッグ
W340×H400mm 4,400円(税込)



Tシャツ
S・M・L 4,400円(税込)



フラットポーチ
W200×H140mm 2,750円(税込)



ロゴミニトート
W300×H350mm 3,850円(税込)



ロゴポーチ
W150×H100mm 2,200円(税込)



バスキース
ストラップ10mm巾、長さ約900mm
/ケース部分内寸約W105×H155mm
1,100円(税込)



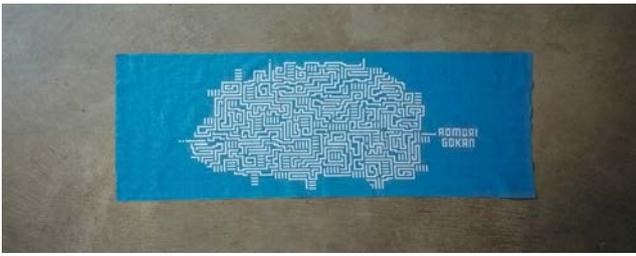
チケットファイル
W115mm×H205mm 550円(税込)



缶バッジ
直径54mm/全3種 各550円(税込)



アクリルキーホルダー
W54×H40mm 1,100円(税込)



てぬぐい W900×H350mm/全2種 1,980円(税込)



りんごのふがし
80g 540円(税込)

りんごのセミドライ
35g 540円(税込)

りんごサイダー
250ml 540円(税込)

りんごティー
2g×10個 1,728円(税込)

アーティストTシャツ M・L/全5種 4,400円(税込)



青森県立美術館/井田大輔



青森公立大学 国際芸術センター青森/鈴木正治



弘前れんが倉庫美術館/永沢碧衣



八戸市美術館/東方悠平



十和田市現代美術館/アナイス・カレニン

撮影：小野慶輔（アーティストTシャツ）
山本康平（それ以外のグッズすべて）

9. 連携事業

9-1 フェスサポーター

(1) 連携内容

アートフェスを応援し、連携イベントや割引サービスで盛り上げてくれる「フェスサポーター」をWEB・SNSを中心に募集し、計78の団体・店舗が登録した。参加団体・店舗には本ポスターやチラシ、ミニのぼり等の宣材物を配布し、本フェス開催の告知に協力いただいた。また、一部の店舗では、ガイドブックを持参した方に提供する割引や特典を準備していただき、公式WEBサイトで情報を掲載、SNSで拡散することで、サポーター店舗への集客にも貢献することができた。



宣材物展開の様子



公式WEBサイトでは店舗・イベントの詳細を紹介

(2) 参加団体

サポーターの構成は以下の通り

<内訳>

① 飲食店	② 書店・物販	③ ホテル・観光	④ アート系施設・イベント	⑤ その他	合計
34	19	5	19	1	78

(3) 参加者の声

アートフェス終了後、参加団体・店舗を対象としたメールでのアンケートを実施。

- ・ガイドブック持参で来店していただいたお客様がいた。
- ・県の美術イベントに参加しているという充実感を感じられた。
- ・情報発信力・広報面でのアピール力に限界があるので、他館との連携企画やWEBでの広報はありがたかった。
- ・5館に訪問されたと思われる、ショッパーをご持参の方が沢山ご来店された。アートを通じて青森県内に訪れる方々がもっと増えることに期待したい。
- ・サービス提供(ガイドブック持参特典)内容が、お客さまの購買ニーズではなかった。結果にはつながらなかったが、アートを通じ、一緒に宣伝して頂いたことによって来店には繋がったと思う。

<参加団体一覧>

※五十音順

No.	店舗名/団体名
1	青い森珈琲焙煎所
2	青森県観光物産館アスパム
3	青森県立美術館ミュージアムショップ
4	青森中央学院大学サテライトキャンパス(Friendly Window)
5	AOMORI NEBUKO FESTIVAL 2024
6	居酒屋食堂 ドデノメヘヤッコ
7	14-54
8	弘前市立博物館
9	「A-Paradise2024×アスパムARTマルシェ」/ TSUKURIDASU
10	A-FACTORY
11	emmycafe 丸石
12	奥入瀬 森のホテル
13	おやつとお茶と日用品の店 つなぐ
14	カネイリ番町店 喫茶コーナー
15	カネイリミュージアムショップ
16	Café 4匹の猫
17	CAFE & RESTAURANT BRICK
18	カフェ ドゥマン
19	カフェリトルハウス
20	株式会社小野画廊
21	株式会社青森イベントサービス
22	喫茶室 baton
23	cube cafe&shop
24	green glass
25	groovin'81 グルーヴィンハイ
26	クレイル ソレイユ
27	更上閣「武者人形展」/ 三八五交通株式会社
28	コノハト茶葉店
29	衣とうつわ 手の國
30	coworking cafe estacion
31	SAIGADO「八戸彩画堂50周年企画」/ 株式会社八戸彩画堂
32	SAKANA & SAKE ちょこっと
33	自家焙煎の店 喫茶マロン
34	JIA 東北支部巡回建築展「建築家の仕事」/ 弘前市民文化交流館
35	昭和喫茶 ガロ
36	新町チキン
37	SWEET CAFE CORORON
38	大黒寿司
39	高岡の森弘前藩歴史館

No.	店舗名/団体名
40	高岡の森古民家カフェ 山の子
41	チャーリーズジャム
42	ちょい呑み酒場 BEGIN
43	司 バラ焼き大衆食堂
44	つがるワイナリー
45	TSUNDOKU BOOKS
46	テイクアウト専門店 ChicK
47	電器屋 IKO
48	十和田シティホテル・サンバスタンド
49	「どんころ」展 / VEHICLE inc.
50	「南郷サマージャズフェスティバル2024」
51	にがおえ屋 すまいる OK
52	nonoc
53	八戸グランドホテル
54	八戸クリニック街かどミュージアム
55	八戸市美術館内 ミュージアムショップ / 金入
56	八戸プラザホテル レストランJUNO
57	八戸プラザホテル
58	HappyBulldog
59	ハビたのかふえ
60	浜市場みなとと
61	バル酒場 お陽さまが見てるよ
62	晩酌 ya Bears Home
63	ハンドサンドイッチズ
64	HANDMADE RENTALBOX テッコ舎
65	帆風美術館
66	HIROSAKI ORANDO
67	弘前市立郷土文学館
68	Book & Space 旅空間
69	まちぐみ
70	みな実古琲店
71	みやぞのママストレッチ「HERE & NOW !」
72	museum shop HIROSAKI MOCA
73	ユートリー / (一財) VISIT はちのへ
74	リブバイオニア
75	Rira Cafe
76	6かく珈琲
77	WHARF TANECHI
78	Wanna eat

9-2 周遊プランの企画、開発

(1) 周遊プラン

アートを起点に県内各地域にある自然や食、建築など豊かな文化に触れることを通じて、青森の魅力を発見する機会となるような周遊コースを企画。公式ガイドブック、WEBサイトを通じて発信した。

モデルコース 1	公共交通機関と徒歩で 青森市 1day プラン		モデルコース 7	車でめぐる アート×工芸体験 弘前～青森 2泊3日プラン	
モデルコース 2	公共交通機関と徒歩で 弘前市 1day プラン		モデルコース 8	徒歩と公共交通機関でめぐる アート×建築 弘前と十和田の1泊2日プラン	
モデルコース 3	公共交通機関と徒歩で 八戸市 1day プラン		モデルコース 9	車でめぐる アート×縄文 八戸、青森、弘前の2泊3日プラン	
モデルコース 4	公共交通機関と徒歩で 十和田市 1day プラン		モデルコース 10	車でめぐる アート×フォトジェニック 津軽エリアの1泊2日プラン	
モデルコース 5	ほぼ公共交通機関で5館めぐり アート×ご当地グルメ 2泊3日プラン		モデルコース 11	車でめぐる アート×フォトジェニック 南部・下北エリアの2泊3日プラン	
モデルコース 6	公共交通機関と徒歩でめぐる アート×自然 八戸～十和田 2泊3日プラン				



周遊プランの掲載（公式ガイドブック）



周遊プランの掲載（WEBサイト）

(2) AOMORI GOKAN アートフェス 2024 県内バスツアー

5館周遊を促進するため、美術館・アートセンターを起点に地域の自然、アート、建築、工芸、食などを巡るバスツアーの催行を支援した。



県内バスツアーパンフレット



三戸町役場



白神山



奥入瀬溪流



弘前れんが倉庫美術館

<AOMORI GOKAN アートフェス 2024 県内バスツアー>

※旅行企画・実施:株式会社 また旅くらぶ

1	アート × 花 弘前城と日本一の桜	実施日	2024年4月13日(土) 日帰り
	行程	参加人数	13名 (男性5名、女性8名 / 県内11名、県外2名)
青森駅 - 新青森駅 - 青森県立美術館 - 青森公立大学 国際芸術センター青森 - dashi-factory 雅(昼食) - ふじさき食祭テラス - 弘前れんが倉庫美術館 - 弘前城(桜の名所) - 新青森駅 - 青森駅			
2	アート × 花 十和田市官庁街通りの桜&桜流鏝馬	実施日	2024年4月14日(日) 日帰り
	行程	参加人数	13名 (男性4名、女性9名 / 県内11名、県外2名)
八戸駅 - 八戸市美術館 - 十和田中央公園(桜流鏝馬) - 農園カフェ日々木(昼食) - 十和田市現代美術館・アート広場・十和田市官庁街通り(桜の名所) - 八戸駅			
3	アート × 宮越家ステンドグラス	実施日	2024年6月8日(土) 日帰り
	行程	参加人数	15名 (男性2名、女性13名 / 県内15名、県外0名)
青森駅 - 新青森駅 - 青森県立美術館 - 太宰治ゆかりの古民家「旧傍島家」(昼食) - 中泊博物館・宮越家「離れ・庭園」・中泊町特産物直売所ビューア - 新青森駅 - 青森駅			
4	アート × 宮越家ステンドグラス	実施日	2024年6月18日(日) 日帰り
	行程	参加人数	24名 (男性7名、女性17名 / 県内18名、県外6名)
青森駅 - 新青森駅 - 青森県立美術館 - 太宰治ゆかりの古民家「旧傍島家」(昼食) - 中泊博物館・宮越家「離れ・庭園」・中泊町特産物直売所ビューア - 新青森駅 - 青森駅			
5	アート × 白神山地 × マタギ	実施日	2024年6月22日(土) 日帰り
	行程	参加人数	12名 (男性5名、女性7名 / 県内10名、県外2名)
青森駅 - 新青森駅 - 弘前れんが倉庫美術館 - アクアグリーンビレッジANMON - やまごほん(昼食) - マタギと一緒に白神山地ブナ林散策 - 道の駅津軽白神 - 新青森駅 - 青森駅			
6	アート × 奥入瀬溪流 × ルピナス	実施日	2024年6月23日(日) 日帰り
	行程	参加人数	9名 (男性2名、女性7名 / 県内8名、県外1名)
新青森駅 - 青森駅 - 七戸十和田駅 - 十和田市現代美術館・アート広場 - 手作り村鯉艸郷・食の文化伝承店『鯉艸亭』(昼食)・石ヶ戸休憩所・奥入瀬溪流散策(馬門岩・銚子大滝) - 青森駅 - 新青森駅			
7	アート × 弘前の建築	実施日	2024年7月14日(日) 日帰り
	行程	参加人数	9名 (男性1名、女性8名 / 県内8名、県外1名)
青森駅 - 新青森駅 - 弘前れんが倉庫美術館 - 弘前銘醸煉瓦倉庫 - 旧弘前借行社(昼食) - 青森銀行記念館 - 旧弘前図書館 - 弘前市民会館 - 木村産業研究所 - 弘前駅 - 新青森駅 - 青森駅			
8	アート × 津軽烏城焼 × 田んぼアート	実施日	2024年7月20日(日) 日帰り
	行程	参加人数	14名 (男性2名、女性12名 / 県内13名、県外1名)
青森駅 - 新青森駅 - 青森公立大学 国際芸術センター青森 - 創作料理の店蔵よし(昼食) - 津軽烏城焼 - 猿賀公園(蓮の花) - 田んぼアート - 新青森駅 - 青森駅			
9	アート × OTTABIO × KOYA	実施日	2024年8月20日(火) 日帰り
	行程	参加人数	14名 (男性0名、女性14名 / 県内14名、県外0名)
青森駅 - 新青森駅 - 青森公立大学 国際芸術センター青森 - めやーばのやかた(昼食) - 岩木山神社 - OTTABIO(オタービオ) - 新青森駅 - 青森駅			
10	アート × 3匹の犬と11ぴきのねこ × ひまわり	実施日	2024年8月24日(土) 日帰り
	行程	参加人数	14名 (男性1名、女性13名 / 県内12名、県外2名)
八戸駅 - 十和田市現代美術館・アート広場 - 山の学校(昼食・ひまわり鑑賞) - 三戸町役場(11ぴきのねこ・街歩き) - 三戸大神宮(ステンドグラス) - 三戸中央公園 - 道の駅さんのへ - 八戸駅			
11	アート × 種差海岸 × WHARF TANECHI	実施日	2024年9月1日(日) 日帰り
	行程	参加人数	11名 (男性1名、女性10名 / 県内10名、県外1名)
八戸駅 - 八戸市美術館 - 種差海岸(天然芝散策) - 種差の新しい食と観光の拠点「ワーフ タネチ」(昼食) - 葦毛崎展望台 - 蕪嶋神社 - 八戸駅			

参加人数合計
148名 (男性30名、女性118名 / 県内130名、県外18名)

9-3 その他

(1) アスパム週末マルシェ『machi+coto+ba アートマルシェ』

AOMORI GOKANや各館の展覧会チラシ、GO缶などを展示し、来場者に来館したことのある美術館の聞き取りを実施。また、「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の各種SNSを登録いただいた方に、青森県立美術館のポストカード(2種のうちいずれか)をプレゼントするSNSキャンペーンも実施した。

開催日時	2023年9月16日(土) - 18日(月) 10:00~15:00
会場	青森県観光物産館アスパム2階 machicotoba、ロビー、1階エントランスホール ほか



会場の様子



SNS キャンペーン POP

(2) 「アートと花の魅力を活用した誘客促進プロモーション」との連携

青森県観光交流推進部誘客交流課が主催する「アートと花の魅力を活用した誘客促進プロモーション」と連携し、アートフェスのPRを実施した。

① 「青森産直市」でのPR

東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社が主催する「地域再発見プロジェクト」の一環として開催の「青森産直市」にて、青森県の観光PRとともにアートフェスの広報を展開した。各館の展覧会パネルやメイン企画のポスターを掲示し、チラシや小冊子を配架した。また、大宮駅会場ではアートフェスの公式グッズも販売した。

大宮駅会場	開催日時	(1回目) 2023年3月1日(金) - 7日(木) / (2回目) 2024年6月17日(月) - 23日(日)
	会場	JR大宮駅 西口イベントスペース
上野駅会場	開催日時	2024年4月9日(火) - 15日(月)
	会場	上野駅・中央改札グランドコンコース



会場の様子 大宮駅会場(1回目)の展示



上野駅会場の展示

② デジタルサイネージでのPR

北海道旅客鉄道株式会社及び東日本旅客鉄道株式会社の駅構内のデジタルサイネージにおいて、5館が登場する映像を放映した。

放映駅	JR 青森駅、JR 弘前駅、JR 盛岡駅、JR 秋田駅、JR 札幌駅（サツエキビジョン）
放映期間	2024年3月1日(金) - 31日(日)



青森駅



札幌駅

③ 大人の休日倶楽部「趣味の会」講座でのPR

アートフェスの内容とともに、青森で体感できるアートの魅力や土地とアートのつながりなどについて紹介し、アートを起点として地域の自然・文化等に触れる旅への関心を深める講座を実施した。

開催日時	2024年5月25日(土) 13:45～15:45
会場	大人の休日倶楽部趣味の会・東京
講師	弘前れんが倉庫美術館 館長 木村絵理子 田川市美術館 館長 工藤健志(元青森県立美術館 美術企画課長)
参加人数	18名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青森の5つの美術館・アートセンター ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのほらっば」 ・青森の美術館の個性と魅力 ・「青森の地」とアート



(3) 東京・銀座『MMM(メゾン・デ・ミュゼ・デュ・モンド)』での特集企画

「世界のアートとデザインを暮らしに」をコンセプトにDNP大日本印刷が企画運営している銀座のMMMにおいて、アートフェスの開催情報や各館を紹介するコーナーを設け、銀座という好立地な場所でフェスと青森県のPRを実施。

期間	2024年6月14日(金)～8月31日(土)
場所	銀座 MMM3F アートスペース
実施内容	<p>「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の概要をパネル・映像等で紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館の施設、開催展の紹介(パネル、チラシ等) ・5館の建築映像の紹介 ・フェスでの周遊ツアーを俯瞰できるマップの展示 ・公式ガイドブックをはじめオリジナルグッズや、各館のオリジナルグッズ展示販売 <p>オンライントークイベント「地域をつなぐアートフェスの在り方を探る」</p> <p>開催日 8/1(木) 18:00～19:00</p> <p>形式 ライブ配信 (YouTube 銀座MMMチャンネル)</p> <p>登壇 作家 岩根愛、十和田市現代美術館 館長 鷲田めろろ</p>



展示の様子



トークイベントの様子

(4) 東日本旅客鉄道株式会社との連携

七夕短冊イベント

オリジナルデザインの短冊を制作し、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社の協力のもと、新青森駅と青森駅で「七夕ねがいごと記入コーナー」を設置した。新青森駅では学校法人三宝学園認定こども園あすなる幼稚園・あすなるキッズ園による飾り付けのイベントも開催された。

開催日時	2024年6月27日(木) 10:00頃 - 7月7日(日)
会場	新青森駅2階在来線改札口前、青森駅2階待合室出入口付近



青森駅の短冊設置台



掲示の様子

(5) 県市広報誌

県や各市の所管する広報紙にてアートフェスの記事を掲載した。

- ・県民だより4月号(青森県)
- ・あおり紀行2024年度夏・秋号(青森県観光国際交流機構)
- ・広報あおり6月号(青森市)
- ・広報ひろさき4月号(弘前市)
- ・広報とわだ4月号(十和田市)



広報あおり6月号(表紙)



広報あおり6月号(掲載面)

(6) のぼりの設置

オリジナルデザインののぼりを制作し、下記の場所に設置した。

- ・アスパム
- ・三沢空港
- ・新青森駅
- ・あおり観光情報センター
- ・青森駅
- ・弘前市観光案内所



新青森駅の設置の様子

(7) ひろさき桜まつり

弘前さくらまつりの会期中、会場のPRブースにてアートフェスのPRを実施。各館のメイン企画のポスターやチラシ、小冊子、アートフェスのガイドブック、公式グッズを展示し、来場者へ声かけを行った。また、アートフェスの各種SNSを登録いただいた方に、オリジナルステッカーをプレゼントするSNSキャンペーンも実施した。

実施日時	2024年4月19日(金)～20日(土) 10:00～17:00
------	----------------------------------



PRブース



会場の様子

(8) 青森ねぶた祭

青森県庁ねぶたの前ねぶたに参加し、オリジナルデザインのものほりを持ってアートフェスのPRを実施した。

実施日時	2024年8月2日(金)・3日(土) 19:00～21:00
------	-----------------------------------



運行の様子①



運行の様子②

10. 経済波及効果

■ 経済波及効果の推計結果

アートフェス期間中の各美術館・アートセンターへの入場者による青森県内への経済波及効果は49.7億円となり、2023年同期比で約1.4倍に増加(13.2億円増加)したと試算された。【図表1】

なお、各検証は日本銀行青森支店が2025年2月18日に発表した「『AOMORI GOKAN アートフェス 2024』からみた地域間連携等の効果と課題」を参考としている。

【図表1】
経済波及効果の試算値

経済波及効果	直接効果	一次波及効果	二次波及効果
49.7億円	32.3億円	11.1億円	6.3億円

(出所) 日本銀行青森支店

(参考) 直接効果 : 各美術館・アートセンターへの入場者による観光消費額やアートフェス開催事業費等のうち、青森県内で生産される財・サービスにかかるもの。

一次波及効果 : 直接効果によって県内産業にもたらされる生産誘発額。

二次波及効果 : 直接効果および一次波及効果によって生じた雇用者所得の増加分が、新たな消費に向けられることによって県内産業にもたらされる生産誘発額。

(留意点) 複数の仮定を置いて試算しているため、相当の幅を持ってみる必要がある。また、各美術館・アートセンターへの入場者数は、マクロ的な観光需要の動向など外的要因の影響も受けることなどから、経済波及効果の増加額の全てがアートフェス開催による効果ではない点に留意する。

<経済波及効果の試算方法>

- ・美術館・アートセンターへの入場者について、各館提供データやKDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用い、県内容、県外客、インバウンド客別の内訳を推計。そのうち県内容と県外客については、「青森県観光入込客統計」(2023年、青森県)を用い、日帰り客および宿泊客に細分化し、入場者数を推計。
- ・各美術館・アートセンターへの入場者のうち、美術館等への入場と同日中に一度も他の県内主要観光施設に来訪していない県内日帰り客については、観光客とみなせないか観光客であっても観光消費への寄与は小さい入場者(以下、観光消費少額者)とみなし、別途その人数を推計。なお、各美術館・アートセンターと県内主要観光施設への同日中の来訪有無は、KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて推計。
- ・観光消費額は、「青森県観光入込客統計」(2023年)や「訪日外国人消費動向調査」(2023年、観光庁)を基に算出した顧客属性別の観光消費額単価に、前段で推計した各属性の入場者数を乗じて試算。なお、県内日帰り客のうち、観光消費少額者は、観光消費額算出上の入場者数からは除外。また、ここで算出した観光消費額は各種統計等を用いた試算値であるほか、各美術館・アートセンターへの入場を主たる目的としていない入場者の消費額も含まれている点に留意を要する。
- ・「平成27年青森県産業連関表」(青森県)を用い、各美術館・アートセンターへの入場者による観光消費額、アートフェスのチケット販売額やグッズ売上高、開催事業費等の一部を需要増加額と仮定し、それらを産業別に分類したうえで、当該需要増加による経済波及効果(直接効果、一次・二次波及効果)を算出。この際、青森県経済への波及効果を試算する観点から、開催事業費のうち、県外企業への外注費等は、需要増加額から除外。

■ 人流データ等からみたアートフェス入場者の周遊面の特徴

- ・アートフェス期間中の各美術館・アートセンターへの入場者数は、2023年同期比で全館増加した。【図表2】
- ・アートフェス期間中の各美術館・アートセンター間の周遊状況をみると、複数館への入場者数は2023年同期比で増加した。【図表3・4】
- ・アートフェス開催により、美術館・アートセンター間の周遊が活発化したと考えられる。

【図表2】

アートフェス期間中の各美術館・アートセンターの入場者数

施設名	青森県立美術館	青森公立大学 国際芸術センター青森	弘前れんが倉庫美術館	八戸市美術館	十和田市現代美術館
2023年入場者数	66,817人	4,786人	18,273人	39,750人	90,964人
2024年入場者数	72,681人	8,329人	54,016人	68,430人	99,809人

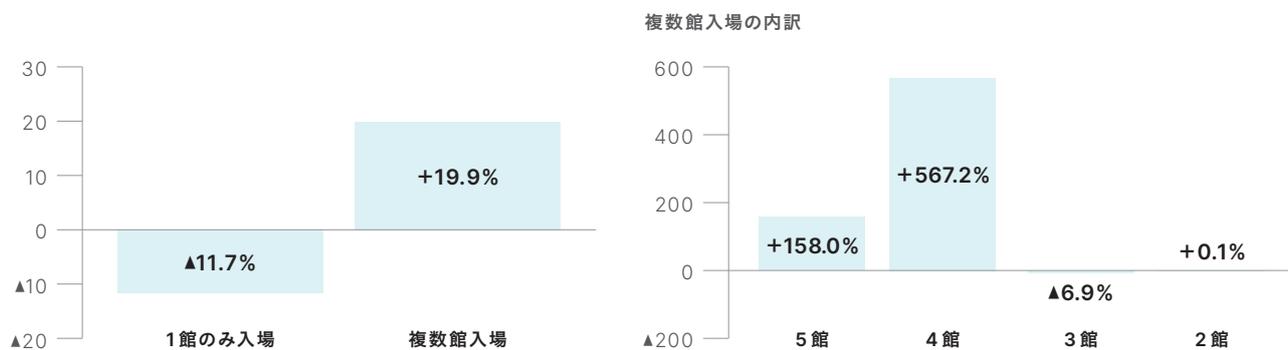
(注1) 集計期間は、2023年、2024年ともに4月13日～9月1日

(注2) 各美術館・アートセンターの入場者数は、アートフェス対象展覧会の入場者数

【図表3】

アートフェス期間中に入場した美術館・アートセンターの館数別の入場者数

(前年比、%)



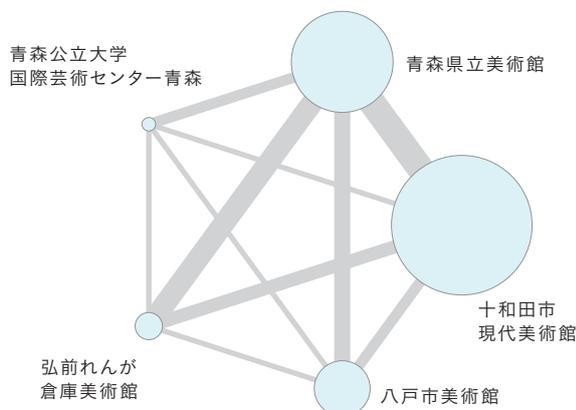
(注) 入場者数はKDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて分析した値。2023年、2024年ともに、4月13日～9月1日の期間において、各美術館・アートセンターに15分以上滞在した人数を示す。KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを利用する場合には以下同じ。

(出所) 日本銀行青森支店、KDDI・技研商事インターナショナル

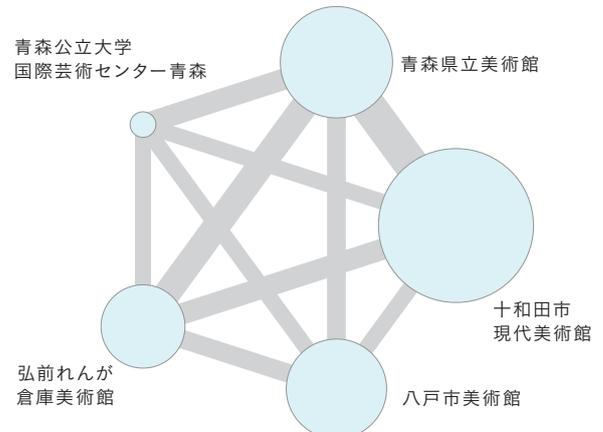
【図表4】

美術館・アートセンター間での周遊

2023年



2024年



(注) 丸の大きさはアートフェス期間中の入場者数、線の太さはアートフェス期間中に接続する2つの館をともに入場した人数を表す。丸で示した入場者数は各館集計値。線で示した入場者数はKDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて分析した値。

(出所) 日本銀行青森支店、KDDI・技研商事インターナショナル

KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計。

11. 助成・協賛一覧

特別協賛



株式会社プロクレアホールディングス



リベラ株式会社

協賛



東奥信用金庫 青い森信用金庫



株式会社角弘
株式会社青森電子計算センター
株式会社ビジネスサービス
株式会社青森共同計算センター



株式会社 三和堂
株式会社 三和物産
株式会社 青森イエローハット
株式会社 do sanwa



津軽海峡フェリー株式会社



東和電材株式会社



富士見総業株式会社



紅屋商事株式会社



株式会社マエダ



三八五流通グループ



株式会社吉田産業



青森朝日放送株式会社



株式会社青森テレビ



RAB 青森放送



青森三菱電機



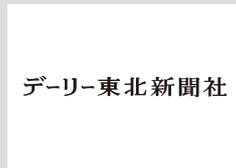
青森三菱ふそう
自動車販売株式会社



株式会社あさひほうむ



株式会社オプティム



株式会社
デーリー東北新聞社



東奥日報社



八戸酒造株式会社



株式会社
日立製作所東北支社



丸大堀内株式会社



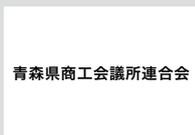
株式会社陸奥新報社



株式会社
ラグノオささき



株式会社
リンクステーション



青森県商工会
議所連合会



一般社団法人
慈恵会



株式会社
城ヶ倉観光



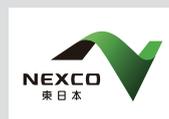
藤村機器
株式会社



プライフーズ
株式会社



ハッピー・ドラッグ



NEXCO 東日本



倉橋建設株式会社



株式会社トロンマネージメント



南部電機株式会社

12. 収支情報

<収入の部>

区分		令和5年度 [2023年度]	令和6年度 [2024年度]	合計 [単位：千円]
県・市負担金	青森県	10,000	10,000	20,000
	青森市	2,500	2,500	5,000
	弘前市	2,500	2,500	5,000
	八戸市	2,500	2,500	5,000
	十和田市	2,500	2,500	5,000
	小計	20,000	20,000	40,000
協賛金		47,500	12,500	60,000
その他		1,540	49	1,589
前年度からの繰入金		0	39,390	
合計		69,040	71,939	101,589

<支出の部>

区分		令和5年度 [2023年度]	令和6年度 [2024年度]	合計 [単位：千円]
広報関係費	・広報プランニング費 ・ウェブサイト作成・運営費 ・周遊プラン作成費 ・プレスリリース作成費 ・プレスツアー実施費 など	16,827	35,367	52,194
ガイドブック製作・購入費		10,514	1,039	11,553
受入体制整備費	・周遊チケット作成・運営費 ・スタンプラリー実施費 など	517	2,128	2,645
アートプロジェクト実施費	・共通企画実施費 ・関連企画実施費 など	0	15,948	15,948
イベント運営費	・オープニングセレモニー実施費 ・クロストーク開催費 など	0	2,956	2,956
事務局運営費	・報告書作成費 ・事務局旅費 など	1,053	10,122	11,175
その他	・契約保証金の返還 など	739	820	1,559
次年度への繰越金		39,390	0	
※AOMORI GOKAN 活動費		0	3,559	3,559
合計		69,040	71,939	101,589

※実行委員会解散のため、今後開催を検討するための活動費として、青森アートミュージアム5館連携協議会が承継する。

13. 作品リスト

※作家名 五十音順

「かさなりとまじわり」 青森県立美術館

No.	作家名	作品名	制作年
1	青秀祐	Ghost Lightning kai	2017/ 2024
2	青木淳	つらなりのはらっぱのための壁	2024
3	池田良二	手稿された断層 Dislocation in Manuscript	1992
4	石黒隆宗	green fragments	1998
5	井田大介	Synoptes	2023
6	市川佳孝	毒きのこスパゲティ「迷路付き」	1992
7	糸虫	虫めずる姫君	2023
8	糸虫	オオミズアオ	2024
9	糸虫	分解者	2024
10	糸虫	虫めずる姫君習作	2022
11	糸虫	小さい虫たち オニヤンマ セイヨウミツバチ オオヒラタシテムシ クスサン幼虫 クスサン オオタバコガ幼虫 ベニスズメ キアゲハ幼虫 キアゲハ ヒメバチ ケラ カノコガ エゾゼミ ホソヒラタアブ オオカマキリ ゴマダラカミキリ ヒグラシ オオツノトンボ ミヤマアカネ ベッコウハゴロモ ハバチ幼虫 セマダラコガネ クロウリハムシ マメコガネ キタクロミノガ ハイイロセダカモクメ幼虫 クマバチ キタクロミノガ ハイイロセダカモクメ幼虫 クマバチ クルマバッタ ツマグロヨコバイ ハサミムシ	2021- 2024
12	糸虫	日本画って何?	2024

No.	作家名	作品名	制作年
13	糸虫	姫とけらおの虫日記	2023- 2024
14	Virtualion	a day before art	2024
15	梅村由美	メルティング・ポット	1992
16	仰木香苗	Untitled	1992
17	大岩オスカル	“sky”	1998
18	大森記詩	Tail code	2024
19	大森記詩	Color scheme on copper / High-visibility	2024
20	大森記詩	Color scheme on copper / Low-visibility	2024
21	大森裕美子	無題(「NOCH ETWAS」誌 特集記事 「視ることと視ないこと」のための)2点	2024
22	大森裕美子	{noch etwas serie 2024} 36点	2024
23	大森裕美子	[Material glance 物質のまなざし]	2020
24	岡谷敦夫	<雨と風による樹の断面>	1993
25	小野崎拓哉	remember more things about mind of memory	1999
26	小保方祥子	the rainbow of gravitaion	1992
27	河口 聖	The in Most of the creation	1993
28	木村希八	作品 87 LCTD-5	1992
29	窪田梨絵	新しい生活様式	2021
30	窪田梨絵	3年目の過ごし方	2022
31	窪田梨絵	Life	2023
32	窪田梨絵	World	2024
33	窪田梨絵	VS Long Covid: Heart	2024
34	窪田梨絵	VS Long Covid: Snake	2024
35	窪田梨絵	VS Long Covid: Drop	2024
36	窪田梨絵	作品のための素材	2024
37	窪田梨絵	Long Note×Long Covid	2024
38	窪田梨絵	AOMORI_city	2023
39	窪田梨絵	AOMORI_new age	2023
40	窪田梨絵	ねことりんご	2024
41	窪田梨絵	マネキネコ活動	2024

No.	作家名	作品名	制作年
42	窪田梨絵	sad & angry	2024
43	窪田梨絵	silent moon_01	2024
44	窪田梨絵	silent moon_02	2024
45	窪田梨絵	silent wall - みえないわたしたち -	2024
46	小井田康和設計室	三戸町立現代版画研究所設計図面	1992
47	小井田康和設計室	『住宅建築』第211号 1992年10月号 小井田康和近作10題	1992
48	小井田康和設計室	三戸町立現代版画研究所竣工写真	1992
49	小井田由貴	無題	1994
50	KOYA	あひるさん	2024
51	KOYA	Jin	2024
52	KOYA	だるまねこ	2024
53	KOYA	だるまねこのあくび	2024
54	KOYA	もふもふ	2024
55	KOYA	悪魔の子	2024
56	KOYA	白鳥	2024
57	KOYA	ボルゾイ	2024
58	KOYA	ダルメシアン	2024
59	KOYA	clown	2024
60	KOYA	土偶	2024
61	KOYA	くろいねこ	2024
62	KOYA	サナギ	2024
63	KOYA	チルチル満ちる	2024
64	KOYA	えぞぜみ	2024
65	KOYA	白い家	2024
66	KOYA	わんこの子	2024
67	KOYA	くろいねこ	2024
68	KOYA	NGYA	2024
69	KOYA	DOG	2024
70	KOYA	白鳥	2023
71	KOYA	ムジナ	2023
72	KOYA	Po	2023
73	KOYA	マルドリ	2023
74	KOYA	夜旅	2023
75	KOYA	野焼香	2023
76	KOYA	喫茶	2023
77	KOYA	銀杏島	2023

No.	作家名	作品名	制作年
78	KOYA	帰路	2023
79	KOYA	夢に出てきた鳥	2023
80	KOYA	chimney	2023
81	KOYA	Non title	2023
82	KOYA	行進	2023
83	KOYA	ライター	2023
84	KOYA	鳩	2024
85	KOYA	DOG	2024
86	KOYA	D・H・H	2024
87	KOYA	D・H・B	2024
88	KOYA	黒い生き物	2024
89	KOYA	DOG	2024
90	KOYA	八甲田丸	2024
91	KOYA	Non title	2024
92	KOYA	Car	2023
93	KOYA	老屋	2023
94	KOYA	CAR	2023
95	KOYA	Dal	2023
96	KOYA	mocco	2024
97	KOYA	JOPPARI	2024
98	KOYA	driving night	2024
99	斉藤喜一	Energy Field	1995
100	坂田あづみ	"smell"	1993
101	算用子綺香	いつかの海	2024
102	鈴木吐志哉	cherry blossoms 桜 春 ~spring~ shiroyama 城山	2003
103	清野耕一	Fertilizin 95-3-受精素-	1995
104	トヨカワイラスト 研究室	スーパーラブ♡地獄	2024
105	中根幹雄	<4つの時間>	1992
106	中林忠良	転位'89-地-	1992
107	中藤文彦	大地の帝国	2003
108	Nakaya	ねむりどうぶつたち	2024
109	野田哲也	日記 1991年8月10日	1992
110	原口典之	《Black Viking S-3》制作のための メモ (45点)	2000
111	原口典之	《Black Viking S-3》制作の際に 切断したプラモデル	2000
112	原口典之	無題	2000

No.	作家名	作品名	制作年
113	原口典之	Gray	2000
114	原口典之	Gray 3	2000
115	原口典之	Gray 4	2000
116	原口典之	タイトル不詳	2000
117	原口典之	タイトル不詳	2000
118	原口典之	Untitled 015	2012
119	原口典之	Air pipe No10	2015
120	原口典之	F-8E CRUSADER	2014
121	原口典之	(制作資料) AH-1 COBRA	1999-2000頃
122	原口典之	(制作資料) 57012	1990-1999頃
123	原口典之	(制作資料) Black Viking S-3 制作のための習作	2000
124	原口典之	(制作資料) Helicopter carrier	制作年不詳
125	宮野春香	うさぎバン頭	2018
126	宮野春香	うさぎバン頭 (ジャム)	2018
127	宮野春香	ピーナッツあめ頭	2018
128	宮野春香	かぼちゃ頭	2019
129	宮野春香	道明寺頭	2020
130	宮野春香	おにぎり頭	2020
131	宮野春香	たべものあたまの頭の中	2024
132	宮野春香	メロン頭	2014
133	宮野春香	メロン頭	2014
134	宮野春香	すいか頭	2016
135	宮野春香	すいか頭	2017
136	宮野春香	キウイ頭	2019
137	宮野春香	キウイ頭	2018
138	宮野春香	みかんゼリー頭	2019
139	宮野春香	オレンジ頭	2021
140	宮野春香	かぼちゃ頭	2022
141	宮野春香	1人と1人	2023
142	宮野春香	かぼちゃ頭	2024
143	室谷心太郎	ABUNAI めぐみ	2012

No.	作家名	作品名	制作年
144	室谷心太郎	撃鉄《coolなとき忘れた Japanese》	2014
145	室谷心太郎	アカシック《ツイニーヨコハマ》	2014
146	室谷心太郎	青森最後の詩人ひろやー《津軽曼荼羅》	2018
147	室谷心太郎	《アントーニオ本多vsトランザム★ヒロン》記録映像 (2013年8月5日新木場1stRING)	2013
148	室谷心太郎	メル・ギブソンズに会いに行こう	2024
149	室谷心太郎	メル・ギブソンズ《4次元の右腕》	2024
150	吉田克朗	Work "8"	1970
151	吉田克朗	Work "10"	1970
152	吉田克朗	Work "17"	1971
153	吉田克朗	Work "18"	1971
154	吉田克朗	Work "19"	1971
155	吉田克朗	Work "27"	1971
156	吉田克朗	Work "43" AB-A	1974
157	吉田克朗	Work "43" AB-A	1974
158	吉田克朗	Work "152"	1985
159	吉田克朗	Work "153"	1985
160	吉田克朗	Work "151"	1985
161	吉田克朗	Work171	1992
162	吉田克朗	《London II》シリーズ	1975
163	吉田克朗	クリスマスII	1993
164	吉田克朗	(《クリスマス》の銅版)	1993
165	吉田克朗	WORK171	1992
166	吉田謙也	累積	2023
167	吉田謙也	滲華	2013/ 2024
168	吉田謙也	GHOST I	2024
169	吉田謙也	GHOST II	2024
170	吉田謙也	尽	2021
171	吉田謙也	共鳴	2018
172	吉田謙也	暴	2016
173	吉田槩子	GLOSSY 1	2005
174	吉田槩子	GLOSSY 12	2005
175	吉田有紀	Silver lining in the dark	2024

※No.3、4、6、15、16、17、24、25、26、27、28、49、99、100、102、103、105、106、107、109、161 所蔵：三戸町教育委員会

※No.96、97、98 個人蔵 ※No.110~124 個人蔵 ※No.144、146、147 個人蔵 ※No.145 所蔵：株式会社パーフェクトミュージック

※No.150~160、162~165 個人蔵 ※No.169 所蔵：帝京大学博物館 ※No.173、174 個人蔵

「currents/undercurrents – いま、めくるめく流れは出会って」

青森公立大学 国際芸術センター青森

No.	作家名	作品名	制作年
1	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	チチリ	
2	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	チカラカラベ	
3	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	カバラミフ	
4	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	ルウンベ	
5	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	樹皮衣 アットゥシ	
6	アイヌの衣服(青森市教育委員会所蔵)	草皮衣 アットゥシ	
7	青野文昭	戦う英雄たち - SACRIFICE 2024	2024
8	青野文昭	雪と人	2024
9	青野文昭	時間と人	2024
10	青野文昭	1950年代のある日	2024
11	青野文昭	死者たち(青森の古新聞欠片より)	2024
12	青野文昭	会津の姫・雍仁親王妃勢津子像オマージュ(青森で収拾した古筆筒に入っていた戦前の写真集より)	2024
13	青野文昭	命乞いする蝦夷たち(あるいは第三次ポエニ戦争時のカルタゴ市民)	2024
14	青野文昭	切腹する仙台藩士・玉虫左太夫(あるいは16世紀以降のアステカの人々)	2024
15	青野文昭	1945年7月10日 仙台市柳町の防空壕で焼け死んだ女性(あるいは2022年3月ウクライナ・プチャで虐殺された女性)	2024
16	青野文昭	矢本のジツチャン(青森で収拾した古筆筒に入っていた戦前の世界地図と、我が祖父の形見であるアルバムと双眼鏡より)	2024
17	青野文昭	戦争と平和(あるいは、戦没者とその子孫)	2024
18	Jumana Emil ABBOUD	'Ein al-Joz Bride, {the walnut bride}	2016
19	Jumana Emil ABBOUD	Your other arm	2022
20	Jumana Emil ABBOUD	Messenger Bird II	2020
21	Jumana Emil ABBOUD	Wolf	2020
22	Jumana Emil ABBOUD	Messenger Bird III	2020
23	Jumana Emil ABBOUD	Messenger Bird IV	2020
24	Jumana Emil ABBOUD	The bird of this story i	2022

No.	作家名	作品名	制作年
25	Jumana Emil ABBOUD	You, and that which came before you (aka, the orange lake)	2022
26	Jumana Emil ABBOUD	Orange water spirit	2020
27	Jumana Emil ABBOUD	Lion Boy	2015
28	Jumana Emil ABBOUD	A matter of taste	2015
29	Jumana Emil ABBOUD	Between Trees, (watery reflection)	2022
30	Jumana Emil ABBOUD	I feel everything (私はすべてを感じる)	2020-2022
31	Jumana Emil ABBOUD	Mirror, mirror	2024
32	Jumana Emil ABBOUD	Shedding skin	2024
33	Jumana Emil ABBOUD	I see you in my reflection I	2024
34	Jumana Emil ABBOUD	Three floating daughters	2024
35	Jumana Emil ABBOUD	Floating guardians	2024
36	Jumana Emil ABBOUD	A green dragon	2024
37	Jumana Emil ABBOUD	Frog-tortoise carried by the great water god between Komainu hands	2024
38	Jumana Emil ABBOUD	Where a rock in the middle of the lake is a turtle you can ride when your tail (or tale) is on fire	2024
39	Jumana Emil ABBOUD	Four mouths to feed, (or, four water sources, inspired by lake Towada)	2024
40	Jumana Emil ABBOUD	Breathing dragon	2024
41	Jumana Emil ABBOUD	Beings of water	2024
42	Jumana Emil ABBOUD	Give your cap to the ancestors (Jizo)	2024
43	Jumana Emil ABBOUD	Beings of light	2024
44	Jumana Emil ABBOUD	Rings around trees	2024
45	Jumana Emil ABBOUD	Ruffling in the trees (or, the disappearance)	2024
46	Jumana Emil ABBOUD	Monkey, parrot, snake, raccoon and leaf	2024
47	Jumana Emil ABBOUD	Beings of smoke	2024

No.	作家名	作品名	制作年
48	Jumana Emil ABOUD	I see you in my reflection II	2024
49	Jumana Emil ABOUD	Breathing cloud	2024
50	Jumana Emil ABOUD	Kokeisha standing in the water	2024
51	Jumana Emil ABOUD	Glass dragon with wings	2024
52	Jumana Emil ABOUD	Water stories in translation	2024
53	岩根愛	The Opening	2024
54	岩根愛	Island in My Mind, Lahaina Lahainaluna Rd &Front st Banyan tree Rev. Gensho Hara and Hara family Machiko Nagao Busta Leopoldino Sienna Daise Letitia Cabanilla Pu'upuha Cemetery	2023- 2024
55	岩根愛	忘れたことを忘れる	2024
56	岩根愛	My Cherry	2024
57	岩根愛	Bare ruin'd choirs. where late the sweet birds sang	2022, 2023
58	岩根愛	離脱の試み / Attempt at Disembodiment 穴が見る / The Hole Also Looks into You 奥入瀬水系 / The Oirase Watershed 最後の葬儀 / The last funeral ラハイナ、2023, 2024 / Lahaina, 2023, 2024 根開き / The Opening Coho Come Home / Coho Come Home 発ちあがる / Germination	2023- 2024
59	工藤省治	呉須魚文象嵌壺	平成時代
60	工藤省治	染付唐草文大皿	平成時代
61	工藤省治	染付草花文大皿	平成時代
62	工藤省治	梅山窯《菊文徳利》《菊文猪口》	
63	工藤省治	原画 16点 染付菊文図	
64	工藤省治	染付点文丸皿	
65	工藤省治	染付草花文	
66	工藤省治	染付唐草文丸皿	
67	工藤省治	染付草花文皿	
68	工藤省治	染付葉文丸皿	
69	工藤省治	染付一ッ唐草文図	
70	工藤省治	染付柘榴文	

No.	作家名	作品名	制作年
71	工藤省治	原画 16点 染付魚文皿	
72	工藤省治	染付魚文図	
73	工藤省治	魚文図	
74	工藤省治	蝶文図	
75	工藤省治	鳥文図	
76	工藤省治	魚文図	
77	工藤省治	鳥文図	
78	工藤省治	染付兎文丸皿	
79	工藤省治	白磁暗花アイヌ文 細口 花生	平成時代
80	工藤省治	動物文図 原画 10点	平成時代
81	工藤省治	仮面 4点	
82	是恒さくら	双子鯨の夢を見たら 頭「正夢と逆夢」 体 共同制作「うつろいのあいだを繻う〜 石になる鯨、貝になるイルカ」 ビデオ テキスト	2024
83	澤田教一	三沢基地・小川原湖ワイドラックス・ パノラマ写真 5点	1950年代
84	澤田教一	三沢沿岸写真 2点	1950年代
85	澤田教一	カラー写真 7点、モノクロ写真 2点	
86	鈴木正治	太平洋	2002
87	鈴木正治	太平洋	2024年 リプリント
88	鈴木正治	太平洋	2002
89	鈴木正治	《太平洋》2点、《太陽と太平洋》	
90	鈴木正治	太平洋	2002
91	鈴木正治	マルイ虹ミタ 飛行機の影ミタ（虹と飛 行機）	1998. 7.10
92	鈴木正治	マルイ虹ミタ 飛行機の影ミタ（虹と飛 行機）	1998. 10.11
93	鈴木正治	マルイ虹ミタ 飛行機の影ミタ（虹と飛 行機）	2003. 2.23
94	中嶋幸治	パルス	2023- 2024
95	中嶋幸治	通過せよ 通過せよ、太陽 通過せよ、飛行機 通過せよ、渡り鳥 通過せよ、いのち 通過せよ、冬の鳥 通過せよ、病室の光 通過せよ、雨 通過せよ、飛行機 習性様式 方角をめぐる	2024

「弘前エクステンジ#06『^{しらかみのぞきみこう}白神観見考』」

弘前れんが倉庫美術館、HIROSAKI ORANDO、ギャラリーまんなか

No.	作家名	作品名	制作年
1	狩野哲郎	系（接木のシャンデリア）	2024
2	狩野哲郎	類推の山山	2024
3	狩野哲郎	類推の山山	2024
4	狩野哲郎	類推の山山（リバーサル）	2024
5	狩野哲郎	純粋な標識（カモフラージュ）	2019
6	狩野哲郎	狩野哲郎によるスケッチやリサーチにまつわる資料	
7	狩野哲郎	全ての部分が固有の形になる	2019
8	狩野哲郎	魔術的な道	2024
9	狩野哲郎	垂直らしさ（海中の彫刻）	2021
10	狩野哲郎	あいまいな地図、明確なテリトリー	2024
11	狩野哲郎	海市蜃楼（蜃気楼）	2021
12	狩野哲郎	純粋な標識（果実のバリエーション）	2024
13	狩野哲郎	一本で複数の木	2021

No.	作家名	作品名	制作年
14	狩野哲郎	系（水平の車輪、マープル、集中線）	2024
15	狩野哲郎	Mirrored Mirage (Rectangle)	2014
16	狩野哲郎	Mirrored Mirage (Square)	2014
17	狩野哲郎	系（ランプ、フォイル、ウール）	2024
18	佐藤朋子	Song of the Fox, August 2022 Version	2022
19	佐藤朋子	佐藤朋子による「向こう側研究会」の活動資料	
20	永沢碧衣	永沢碧衣によるスケッチやリサーチにまつわる資料	
21	永沢碧衣	共鳴	2023
22	永沢碧衣	山懐を満たす	2024
23	L PACK.	いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.	2024

「エンジョイ!アートファーム!!」 八戸市美術館

No.	作家名	作品名	制作年
1	磯島未来	あなたからダンスを紡ぐ	2024
2	漆畑幸男	幸福の絵描き	2024
3	しばやまいぬ	くにゅぎの森3D	2024

No.	作家名	作品名	制作年
4	蜂屋雄士	はちや写真館 家族と写真のプロジェクト	2024
5	東方悠平	自由の像、不自由なバナナ	2024

「野良になる」 十和田市現代美術館

No.	作家名	作品名	制作年
1	丹羽海子	メトロポリス・シリーズ：太陽光処理施設	2024
2	墓原蓉子	また増えた	2024
3	墓原蓉子	そちらはどうですか、こちらは	2024
4	墓原蓉子	霊園、そこにいますか	2024
5	墓原蓉子	霊園、猫がいた	2024

No.	作家名	作品名	制作年
6	墓原蓉子	大湊線	2024
7	アナイス・カレニン	植物であったことはない	2024
8	永田康祐	鮭になる	2024
9	永田康祐	鮭になる方法	2024
10	永田康祐	Feasting Wild	2024

青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

 Aomori Contemporary Art Centre
国際芸術センター青森


弘前れんが倉庫美術館

八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

 十和田市現代美術館

2025(令和7)年3月発行

発行：AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

編集：AOMORI GOKAN アートフェス 2024 事務局(青森県立美術館内)

〒038-0021 青森市安田近野185

TEL: 017-783-3000

E-mail: bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

無断転載禁止